

## 平成29年度 文教委員会資料②

### 【所管事務の調査（報告）】

「川崎市スポーツ推進計画」の改定（案）について

- 資料1 「川崎市スポーツ推進計画」の改定について
- 資料2 川崎市スポーツ推進計画改定（案）
- 資料3 「川崎市スポーツ推進計画」の改定（案）について  
～市民の皆様から意見を募集します～

市 民 文 化 局

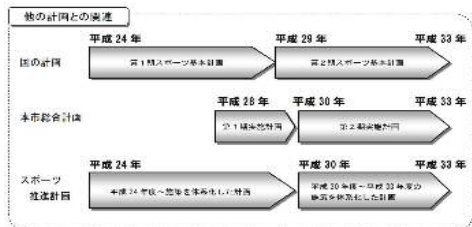
（平成29年11月16日）

1 計画改定の背景と趣旨

- 本市のスポーツ施策を総合的・体系的に位置づけた「川崎市スポーツ推進計画」を平成24年9月に策定。
- 策定から5年余が経過し、その間、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や、スポーツの振興や施策の総合的な推進を図るためスポーツ庁が新設。
- 東京2020大会を契機に、誰もが暮らしやすいまちづくりをめざした分野横断計画の「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を平成28年3月に策定。
- こうした社会情勢の変化に対応し、より効果的・効率的にスポーツのまちを推進するため、計画を改定。

2 計画の位置づけと計画期間

- スポーツ基本法第10条「地方公共団体が定めるスポーツの推進に関する計画」に該当。
- 国の第2期スポーツ基本計画を参酌し、総合計画をはじめ関連する分野別計画との整合性に留意。



- 現計画は、計画期間を平成24～33年度の10年間として策定（必要に応じて見直す）。
- 第2期スポーツ基本計画や本市総合計画の第2期実施計画の計画期間に合わせ、平成33年度までの4年間の計画。

3 推進体制等

- 推進体制
  - ・今後も引き続き、庁内関係局区での取組の検討と合わせて、公募市民委員や学識経験者、有識者等で構成する「川崎市スポーツ推進審議会【附属機関】」への進捗報告・意見等を聴取しながら計画的にスポーツの推進につながる取組を進める。
  - ・総合計画の分野別計画として、事務事業評価等と連携しながら、効果的・効率的に年度ごとの進行管理を行う。

○今後のスケジュール

	平成29年度					平成30年度以降
	10月	11月	12月	1月	2月	
スポーツ推進計画の改定			改定案策定	パブリックコメント		改定案策定
	審議会	改定案策定	審議会		審議会	改定案策定

4 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

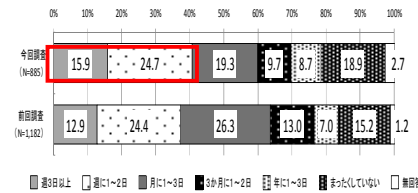
(1) これまでの主な取組状況

- 川崎国際多摩川マラソンなど各種スポーツ大会やスポーツ教室、レクリエーション活動を通して気軽に健康づくりができる機会の創出。
- 地域のスポーツ活動や総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援。
- 障害のあるなしに関わらず、スポーツを通じた交流ができる機会の充実。
- スポーツの普及・促進に向けたスポーツ団体の機能強化、障害者スポーツ協会の設立支援など、誰もが身近な地域で日常的にスポーツの楽しさを味わうことができる環境づくりの推進。
- 富士見公園の整備に合わせて、スポーツ、文化、レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、「スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）」を整備し、平成29（2017）年10月からの利用開始。
- 川崎フロンターレや川崎プレブサンダースなど、川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートのプレーを間近に観る機会の提供。また、スポーツを通して市民が川崎の魅力を楽しみ、シビックプライドを感じることができるよう、地域イベントへの参加や地域貢献活動の輪を広げる取組の推進。

(2) スポーツを取り巻く現状と課題（市民アンケート等からの考察）

① スポーツを「する」

- 週1日以上スポーツをしている市民は40.6%。前回調査時（37.3%）から上昇しているが、全国平均（42.5%）と比較すると低い。
- スポーツをする主な理由の第1位は「健康・体力づくり」で66.4%。前回調査時（53.1%）から大幅な上昇。
- 週1日以上スポーツをしている市民の割合は、30歳代、40歳代で低くなっている。



【図1 スポーツの実施頻度】

～子どものスポーツに対する取組～

- 市内児童生徒の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、本市の小学5年生、中学2年生の体力合計点の平均は、全国平均を下回っているが、ゆるやかな上昇傾向。

【課題】ライフステージに応じた様々なスポーツや体力づくり、一緒に楽しめる仲間づくりなど

② スポーツを「観る」

- スポーツを観ることが好きな市民は76.8%で前回調査時（77.6%）と同じ傾向。
- 直接観戦した市民は、26.1%。（本市内で直接観戦した市民は13.1%）（参考）全国平均は24.7%
- 障害者スポーツを「観る」機会について、テレビ・インターネット等での観戦が最も高く、次に「機会があれば観戦したいが観戦していない」が高い割合を示している。

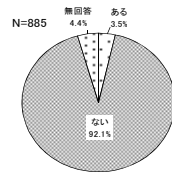
	合計	川崎市内の会場で観戦した	川崎市内以外の会場で観戦した	テレビ・インターネット等での観戦	機会があれば観戦したいが観戦していない	観戦が好きな理由がわからない	観戦が好きな理由がわからない	その他	わからない	無回答
全体	100.0	11.5	15.7	77.6	6.8	6.1	3.7	12.1	1.9	1.9
10歳未満	100.0	10.4	22.8	71.9	6.9	6.9	0.0	0.0	1.0	1.0
10~20歳	100.0	9.3	20.1	70.6	6.9	6.6	0.0	0.7	0.7	0.7
20~30歳	100.0	16.8	14.8	75.8	6.9	6.0	0.0	1.8	0.0	0.0
30~40歳	100.0	21.2	22.9	78.8	6.0	6.2	0.0	1.8	0.0	0.0
40~50歳	100.0	16.3	21.3	78.3	4.2	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0
50~59歳	100.0	19.7	24.8	80.4	2.8	7.8	0.7	0.0	0.7	0.7
60~69歳	100.0	6.8	6.9	78.1	6.8	7.8	0.7	0.7	2.9	2.9
70歳以上	100.0	11.9	11.1	75.5	1.9	1.9	1.1	1.1	4.0	4.0
	100.0	6.2	6.4	78.0	6.0	7.8	0.0	4.0	8.8	8.8

【図2 スポーツの観戦状況】

【課題】多くの市民のスポーツ観戦につながる取組の充実など

③ スポーツを「支える」

- スポーツを支える活動に参加したことがある人は3.5%。（参考）全国平均は6.1%
- 【課題】身近な場所でスポーツを楽しめる環境の整備や多くの市民がスポーツに関わる機会の拡充など



【図3 スポーツを支える活動への参加】

5 スポーツ推進に向けた取組の方向性

本市のスポーツを取り巻く現状等を踏まえた、今後のスポーツ施策を推進するにあたっての取組の方向性。

- ①スポーツを身近に親しめる環境づくり
  - スポーツは多くの人を惹きつける魅力的なコンテンツとして、国においてもその役割が大きく期待されている。「する」「観る」「支える」の様々な形で、全ての人々が気軽にスポーツに取り組める環境づくりを進める。
- ②生涯にわたって、誰もがスポーツを楽しめる機会の充実
  - 本市においても、2020年には「超高齢社会」を迎えることが見込まれる中、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、多様なニーズに応じて、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、そして楽しむ機会を充実させる。
- ③スポーツを通じた地域での交流等の機会の充実
  - 都市化の進展に伴い、地域や近隣住民とのつながりを感じにくく安心感が希薄化する中、スポーツの様々な効果を活用し、地域コミュニティの醸成、地域の活性化といった市民の参加・交流機会の拡充や、生きがいづくり、また、ライフスタイルの変化に応じたスポーツ・運動の習慣づくりに取り組む。
- ④競技スポーツの推進
  - 東京2020大会等に向けて、スポーツの競技人口の増加が見込まれることから、市内で積極的に活動する各種スポーツ団体の技術力の向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化、適切な指導・助言を行うことができる専門性の高い人材の育成等に取り組む。
- ⑤スポーツを通じた魅力あるまちづくり
  - 東京2020大会、またその先の市制100周年を目指して、スポーツを通じた川崎の都市イメージの向上や魅力の向上・発信に取り組むとともに、観光や教育などの各分野と連携し、効果を高め、活力にあふれた魅力あるまちづくりを進める。

6 計画改定にあたっての考え方

○「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」の趣旨を踏まえる

- ・「かわさきパラムーブメント」を契機として、市民のスポーツに対する気運や健康づくりへの関心を高め、スポーツのまちの推進につながるよう、具体的な取組を盛り込む。



○基本理念を実現するため、基本目標を設定する

- ・基本理念を実現するため、東京2020大会や、市制100周年、さらにその先の未来をめざし、「スポーツを通じて誰もが自分らしく暮らし、支え合える社会を実現しよう」を「かわさきパラムーブメント」の趣旨を踏まえた取組の視点として掲げるとともに、現計画の重点施策「スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てよう」の位置づけをより高め、5つの基本方針に先立つ基本目標とする。

○基本理念の成果を可視化するため、成果指標を設定する

- ・基本理念の成果をしっかりと可視化し、課題や改善点を明確化することで、効果的・効率的に「スポーツのまち」を推進するため、基本方針において「する」「観る」「支える」の観点から13個の成果指標を設定。

# 「川崎市スポーツ推進計画」改定案の構成

## 基本理念

川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく。

## 基本目標【新規】

### 基本目標 1

スポーツを通じて誰もが自分らしく暮らし、支え合える社会を実現しよう

・多様な人々が生き生きと豊かに暮らす上での障壁となっている意識・社会環境のバリアを取り除き、スポーツを通じてこれらの課題に立ち向かうことができるよう、一人ひとりが尊重され、能力を発揮することができる、多様性を尊重した、誰もが排除されない社会の実現を目指す。



### 基本目標 2

スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てよう

・本市が「スポーツのまち」として今後さらに発展していくためには、スポーツを楽しむ市民が一人でも多くいることが不可欠となる。本計画では「子ども」に着目し、スポーツ好きの子どもを育てていくことを定め、将来、スポーツ好きの市民であふれ元気で活力のあるまちを目指す。

## 基本方針(5) (※成果指標 (13) 【新規】)

①スポーツを身近に親しむことができるまち  
市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、**スポーツを身近に感じることができるまち**を目指し、「する」「観る」「支える」観点から、**機会の拡充、安全を確保した環境づくりに取り組みます。**  
【成果指標】・週1回以上のスポーツ実施率  
・年1回以上の直接観戦率  
・スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合  
・スポーツセンター等施設利用者数  
・「多摩川ランフェスタin川崎」におけるボランティアに占める障害のある方の割合  
・「多摩川ランフェスタin川崎」におけるボランティアに占めるボランティアリーダーの割合

②生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち  
年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、**誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができるまち**を目指します。そのために、市民の体力や年齢、興味・関心の変化などに応じ、**子どもから高齢者までライフステージに対応した多様なスポーツ施策を展開します。**  
【成果指標】・体力テストの結果(小5、中2)  
・障害者の週1回以上のスポーツ実施率  
・市障害者スポーツ大会競技参加者数  
・スポーツセンター等の障害者個人利用者数

③スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち  
スポーツには、お互いを知り合い交流を深めるきっかけとなるだけでなく、**地域においてコミュニティを形成し、現代社会で希薄となった住民同士の関わりを生み出す効果も期待されます。**こうしたスポーツの効果を活用し、**スポーツを通じ、地域でともに暮らす仲間とのふれあいやコミュニケーションを楽しみ、地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるまち**を目指します。  
【成果指標】・総合型地域スポーツクラブの会員数

④スポーツに挑戦する喜びがあるまち  
各種スポーツにおける技術力向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化などを行い、**スポーツへ挑戦し、その成果を発揮することができるまち**を目指します。  
【成果指標】・「多摩川ランフェスタin川崎」の参加者数

⑤スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち  
川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携を図るなど、**地域活動や地域の活力を高める取り組みを推進し、スポーツを通して、誰もが川崎の魅力・活力が感じられるまち**を目指します。  
【成果指標】・かわさきスポーツパートナーによるホームゲーム市民招待の申込者数

## 基本施策 (23)

- ①- (1) スポーツを「する」機会の充実
- ①- (2) スポーツを「観る」機会の創出
- ①- (3) スポーツを「支える」人材の育成
- ①- (4) 身近な公共スポーツ環境の充実
- ①- (5) スポーツ関係団体との連携・支援
- ①- (6) スポーツ情報の提供
- ①- (7) スポーツの安全確保
- ②- (1) 乳幼児期の運動遊びの推進
- ②- (2) 子どものスポーツの推進と体力向上に向けた取組
- ②- (3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり
- ②- (4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり
- ②- (5) 障害者スポーツの推進
- ③- (1) 総合型地域スポーツクラブの充実
- ③- (2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進
- ③- (3) 運動の習慣づけの促進
- ④- (1) 次世代アスリートの強化・育成
- ④- (2) 指導力の向上
- ④- (3) 各種スポーツ大会の開催・参加
- ④- (4) 公共スポーツ施設の機能向上
- ⑤- (1) ホームタウンスポーツの推進
- ⑤- (2) スポーツを通じた本市の魅力発信
- ⑤- (3) スポーツによる地域経済の活性化
- ⑤- (4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

## 主な取組 (※太字は新規・拡充)

- 初心者向けスポーツ教室、**地域における障害者スポーツの普及促進**
- 「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待
- スポーツ推進委員の資質向上、**スポーツボランティア人材の育成**
- スポーツ・文化総合センターの運営、麻生スポーツセンターのESCO事業**
- 各種スポーツ団体と連携及び活動支援
- ホームページや広報紙の充実、**スポーツセンターニュース**
- 各種団体との連携、AEDの配備と周知啓発**
- 幼児向けスポーツ教室、親子スポーツ教室
- 新体カーストの活用、小学校キラキラタイム、**教員の指導力向上**
- 夜間スポーツ教室、健康づくり教室
- シニアスポーツ教室、市老人スポーツ大会、**ねりんピックへの派遣**
- 障害者スポーツ教室、障害者アスリートの施設利用**
- 既存クラブの活動充実、新規クラブの設立支援**
- 各区で実施する主なスポーツ事業・イベント、**多様な主体と連携した取組**
- 各区の市民主体の(公園)体操、**介護予防 かわさき体操、各区のウォーキングマップの作成や教室の開催**
- 次世代アスリートの強化・育成支援**
- スポーツ指導者の派遣、**競技指導者等の育成支援**
- 市民体育大会、川崎国際多摩川マラソン**
- 等々力陸上競技場の第2期整備**
- ふれあいスポーツ教室、ホームゲームの市民招待
- 英国代表チームの事前キャンプ受け入れ、国内外との都市間交流**
- スポーツと連携した観光振興、**国際的・全国的スポーツ大会の開催**
- 富士通スタジアム川崎を活用した取組、**フラッグフットボールの普及・交流大会**

# 川崎市スポーツ推進計画 改定（案）

川 崎 市

# 目 次

第1章	計画の改定にあたって	1
1	計画改定の背景と趣旨	1
2	計画の位置づけ	3
3	計画期間	4
第2章	現状と課題	5
1	川崎市の特性	5
2	これまでの主な取組状況	7
3	スポーツを取り巻く現状と課題	8
4	スポーツ推進に向けた取組の方向性	20
第3章	計画の基本的事項	21
1	基本理念	21
2	基本目標	22
3	5つの基本方針	23
4	全体構成	24
第4章	基本施策	26
	基本方針1 スポーツを身近に親しむことができるまち	26
	基本方針2 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち	35
	基本方針3 スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち	41
	基本方針4 スポーツに挑戦する喜びがあるまち	47
	基本方針5 スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち	50
第5章	計画の推進	55
1	計画の改定に向けた取組	55
2	計画の推進体制と評価・検証	55

# 第1章 計画の改定にあたって

## 1 計画改定の背景と趣旨

### (1) スポーツ推進計画の策定

スポーツに親しみ、楽しむことは、体を動かすことによる爽快感だけでなく、心身の健全な発達や、健康・体力の維持増進、人と人との交流による地域の一体感や活力など、様々な効果をもたらします。

また、スポーツは、人間の可能性の極限を追求するという側面を有しており、スポーツに打ち込むひたむきな姿は、観る人にも夢や感動を与えるなど、豊かで活力ある社会の形成にも貢献するものです。

このように様々な効果を持つスポーツは、時代の流れとともに市民の意識が変容し、求められる役割も多様化しており、社会における重要性が大きくなっています。こうした中、平成23(2011)年8月、これまでのスポーツ振興法に代わり、スポーツに関する国や地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力等を定めた「スポーツ基本法」が施行されました。

本市では、平成24(2012)年9月、「スポーツのまち・かわさき」として掲げる一体的な事業として、本市の様々なスポーツ事業・関連事業を総合的・体系的に位置付けた、「川崎市スポーツ推進計画」を策定し、市全体の関係各部署が一体となり、スポーツのまちの推進に取り組んできました。

### (2) スポーツ推進計画の改定にあたって

計画策定以降、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催決定や、国においては、平成26(2014)年度から障害者スポーツに関する事業が厚生労働省から文部科学省に移管され、平成27(2015)年10月にはスポーツの振興やスポーツ施策の総合的な推進を図ることを目的としたスポーツ庁が設置されました。また、平成29(2017)年3月には、「第2期スポーツ基本計画」が策定されるなど、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しました。

本市においても、最も上位に位置付けられる計画となる「川崎市総合計画」が平成28(2016)年3月に策定され、スポーツ施策についても、障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、平成29(2017)年度から、障害者スポーツの所管を福祉部門からスポーツ担当部門に移管し、スポーツ施策を総合的・一元的に推進することとしました。また、東京2020大会をダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（様々な人が自分らしく社会の中に混ざり合えること）の象徴と捉え、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指した分野横断計画の「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を平成28(2016)年3月に策定しました。

現行の計画（以下「現計画」という。）の策定から5年余が経過し、こうした社会情勢の変化に適切に対応するため、また、より効果的・効率的にスポーツのまちの推進を図るため、計画を改定します。

改正にあたっては、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」に掲げるスポーツ分野の取組を推進するとともに、東京2020大会を契機とした取組が一過性とならないよう、市民のス

スポーツに対する機運や健康づくりへの関心を高め、スポーツの推進につながるよう「する・観る・支える」の観点から、具体的な取組を盛り込む計画とします。

### （3）「スポーツのまち・かわさき」の推進

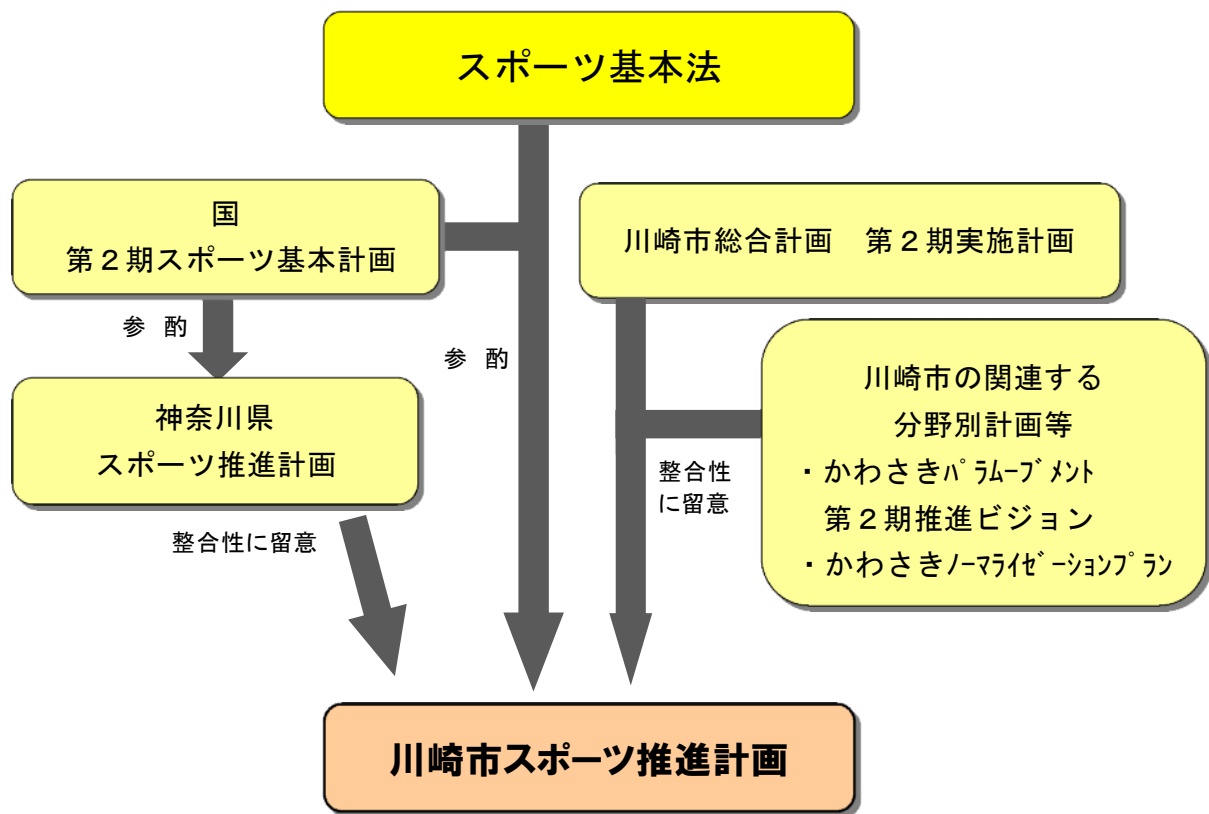
実践的な計画とするためには、行政だけではなく市民やスポーツ関係団体等を含む地域全体で取り組むことが引き続き必要不可欠となります。今後4年間のスポーツ推進の理念・方針を定め改定した「川崎市スポーツ推進計画」（以下、「本計画」）に基づき、行政と地域全体が一丸となり、誰もがスポーツに参加し、スポーツの楽しさを味わうことができる「スポーツのまち・かわさき」を推進し、市民の一人ひとりが健康で明るく、生きがいを持って生き活きと暮らすことができるまちを目指します。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第 10 条に規定する「地方公共団体が定めるスポーツの推進に関する計画」として、スポーツ基本法の理念に則り、国のスポーツ政策の基本的方向を示す指針である「第 2 期スポーツ基本計画」を参酌して策定したものです。また、川崎市政の基本方針である「川崎市総合計画」をはじめ関連する分野別計画等との整合性を図っています。

なお、本計画は、本市においてスポーツを推進していくための分野別計画の 1 つであり、競技性の高いスポーツだけではなく、ウォーキングなどの体を動かす活動や、遊びの要素を取り入れながらスポーツとして行われるレクリエーションも含めて計画の対象とします。

計画の関連図



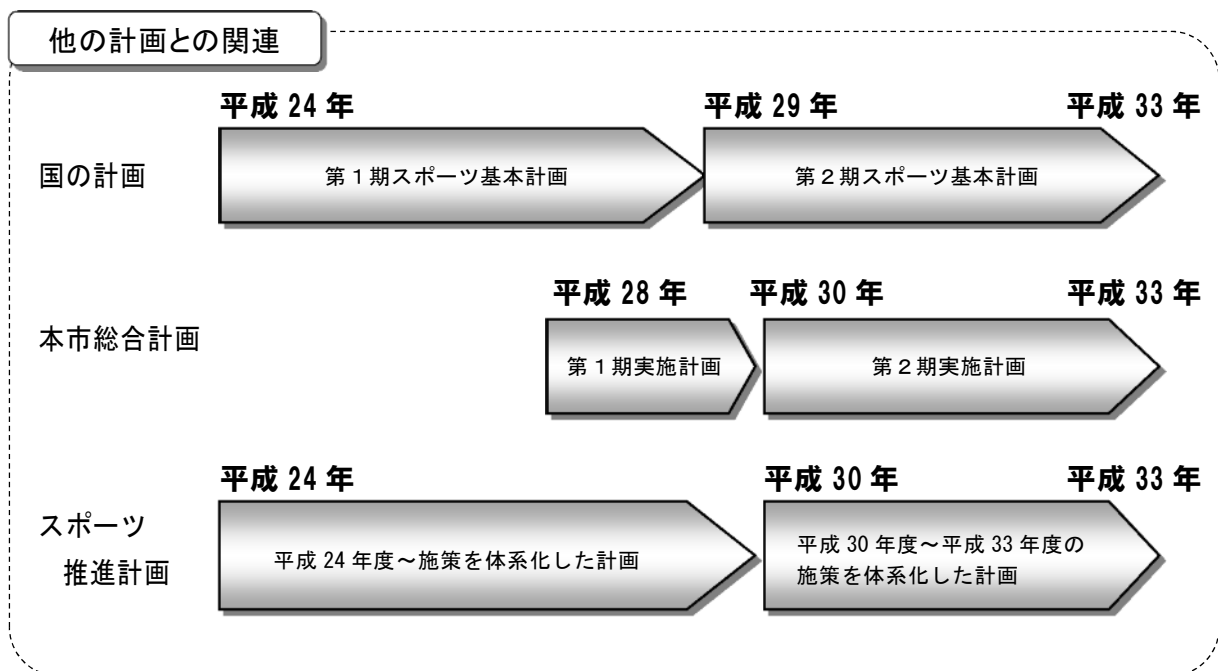


### 3 計画期間

現計画は、計画期間を平成 24（2012）年度～平成 33（2021）年度の 10 年間とし、期間を通じた基本理念、基本方針を定め、平成 24（2012）年 9 月に策定しました。

また、現計画では、策定から約 5 年間において総合的・計画的に取り組む施策を体系化しましたが、計画期間中における社会情勢の変化や、国や市の関連する計画等との整合性を図るため、必要に応じて見直しを行うこととしています。

平成 29（2017）年 3 月に策定された国の第 2 期スポーツ基本計画や、平成 30（2018）年度～平成 33（2021）年度を計画期間とする本市総合計画の第 2 期実施計画にあわせて、平成 33（2021）年度までの今後 4 年間に総合的・具体的に取り組む施策を体系化した計画として改定します。



## 第2章 現状と課題

### 1 川崎市の特性

#### (1) 地理的特性

本市は神奈川県の北東部に位置し、北は多摩川を挟んで東京都に、南は横浜市にそれぞれ隣接し、西は多摩丘陵を控え、東は東京湾に臨んでいます。

市域は、多摩川の上流に向かって次々に拡大されたため、南東から北西へ延長約 33 km にわたる細長い地形となっています。また、北西部の一部丘陵地を除いて起伏が少なく、神奈川県下でも比較的平坦な地域です。市内は、自然的、地理的条件あるいは市域を横断する形で通過している鉄道、道路網と相まって南東部（臨海部）の工業地域と、北西部（内陸部、丘陵部）の住宅地域という性格の異なった地域の結合により都市が形成されています。

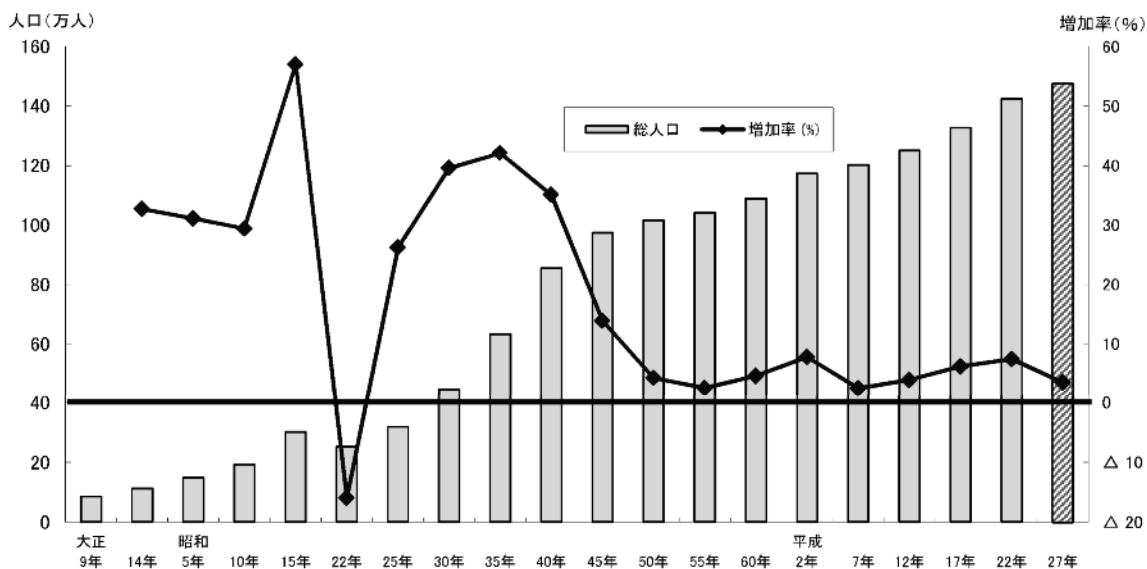
また、本市は首都圏の中心部に位置し、東京・横浜いずれに対しても極めて交通の利便性の高いまちであり、川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅などの市内主要駅では、引き続き拠点整備が進められ、多くの人が行き交い、賑わいのあるまちの形成が進んでいます。

#### (2) 人口

##### ○本市の人口

- ・本市の総人口は昭和 22(1947)年以降、増加を続けており、平成 29(2017)年 4 月には 150 万人に到達しました。

図1 本市の総人口の推移

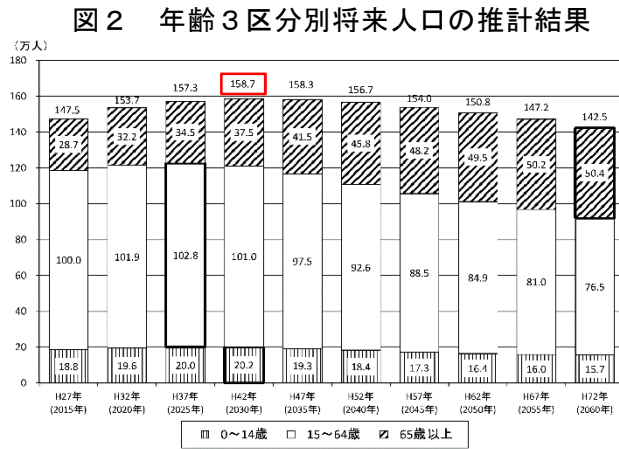


(「平成 27 年国勢調査結果報告書」、平成 29(2017)年 2 月)

## ○将来人口の推計

- ・平成 42 (2030) 年まで増加し、ピーク時は 158.7 万人に達するものと見込まれます。

- ・0～14 歳人口は平成 42 (2030) 年が最も多く 20.2 万人で、その後は減少を続け、平成 72 (2060) 年には 15.7 万人となります。
- ・15～64 歳人口は平成 37 (2025) 年に 102.8 万人まで増加し、その後は減少に転じます。
- ・65 歳以上人口は平成 72 (2060) 年に 50.4 万人になると見込まれます。



(「川崎市将来人口推計」、平成 29 (2017) 年 5 月)

- ・構成比でみると 0～14 歳人口、15～64 歳人口ともに将来にわたって減少傾向となる見込みとなっている一方、65 歳以上人口の割合は、平成 72 (2060) 年まで増加が続くと見込まれます。

## ○平成 27 年国勢調査結果から見る大都市との比較

- ・人口は、前回調査 (平成 22 年) に比べ 49,701 人 (3.5%) 増加し、大都市の中でも 3 番目に増加率の高い都市となっています。
- ・人口密度は、本市は 10,220 人/k m<sup>2</sup> であり、大都市平均の 4,290 人/k m<sup>2</sup> に比べて非常に高く、大都市の中で 3 番目の高さです。
- ・平均年齢は、大都市の中で最も低く (平成 17 年国勢調査から連続)、生産年齢人口 (15～64 歳) の割合が最も高い (平成 2 年国勢調査から連続) ことから、引き続き若い世代の多い都市といえます。

■平成27年国勢調査結果に基づく大都市対照表

図表1 人口増加率(H22年比)

都市	増減数	増加率 (%)
福岡市	74,938	5.1
東京都区部	327,045	3.7
川崎市	49,701	3.5
仙台市	36,173	3.5
さいたま市	41,545	3.4
札幌市	38,811	2.0
広島市	20,191	1.7
名古屋市	31,744	1.4
岡山市	9,890	1.4
千葉市	10,133	1.1
横浜市	36,071	1.0
大阪市	25,871	1.0
熊本市	6,348	0.9
相模原市	3,236	0.5
京都市	1,168	0.1
新潟市	▲1,744	▲0.2
堺市	▲2,656	▲0.3
浜松市	▲2,886	▲0.4
神戸市	▲6,928	▲0.4
静岡市	▲11,208	▲1.6
北九州市	▲15,560	▲1.6

図表2 人口密度

都市	人口密度
東京都区部	14,796
大阪市	11,950
川崎市	10,220
横浜市	8,558
名古屋市	7,032
さいたま市	5,813
堺市	5,602
福岡市	4,481
千葉市	3,576
神戸市	2,760
相模原市	2,192
北九州市	1,954
熊本市	1,898
京都市	1,782
札幌市	1,741
仙台市	1,376
広島市	1,317
新潟市	1,115
岡山市	911
浜松市	512
静岡市	499

図表3 平均年齢

都市	平均年齢
静岡市	47.5
北九州市	47.5
新潟市	46.8
神戸市	46.6
札幌市	46.2
浜松市	46.2
京都市	45.9
大阪市	45.8
堺市	45.8
千葉市	45.4
名古屋市	45.0
横浜市	44.9
相模原市	44.8
熊本市	44.8
岡山市	44.7
東京都区部	44.5
広島市	44.4
仙台市	44.3
さいたま市	44.3
福岡市	43.1
川崎市	42.8

図表4 15～64歳人口割合

都市	15～64歳人口割合
川崎市	67.7
東京都区部	67.0
福岡市	66.0
仙台市	65.0
さいたま市	64.0
横浜市	64.0
札幌市	63.7
相模原市	63.6
大阪市	63.6
名古屋市	63.3
千葉市	62.4
広島市	62.1
京都市	62.0
熊本市	61.7
岡山市	61.5
新潟市	60.8
神戸市	60.7
浜松市	60.0
堺市	59.5
静岡市	59.3
北九州市	58.1

(「平成 27 年国勢調査結果報告書」を元に作成)

## 2 これまでの主な取組状況

平成 24（2012）年に策定した「スポーツ推進計画」に基づく主な取組状況は、以下の通りです。

- 川崎国際多摩川マラソンなど各種スポーツ大会やスポーツ教室、レクリエーション活動を通して気軽に健康づくりができる機会を増やすとともに、地域のスポーツ活動や総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援しています。



川崎国際多摩川マラソン

- 障害のあるなしに関わらず、スポーツを通じた交流ができる機会の充実、様々な事業を通じたスポーツの魅力発信、スポーツの普及・促進に向けたスポーツ団体の機能強化、障害者スポーツ協会の設立支援など、誰もが身近な地域で日常的にスポーツの楽しさを味わうことができる環境づくりを進めています。

- 富士見公園の整備に合わせて、スポーツ、文化、レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、「スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）」を整備し、平成 29（2017）年 10 月から利用を開始しました。



スポーツ・文化総合センター

（カルッツかわさき）

- 川崎フロンターレや川崎ブレイブサンダースなど、川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートのプレーを間近に観る機会を提供するとともに、スポーツを通して市民が川崎の魅力を楽しみ、シビックプライドを感じることができるよう、地域イベントへの参加や地域貢献活動の輪を広げていくなど、スポーツのまちづくりを進めています。



スポーツパートナーと協働・連携した  
スポーツ教室の実施

### 3 スポーツを取り巻く現状と課題

計画を改定するにあたり、国の「第2期スポーツ基本計画」を参酌するとともに、平成29(2017)年度に「スポーツに関するアンケート調査」、「スポーツに関する中学生アンケート」、「川崎市スポーツ推進計画改定に伴う調査(スポーツ団体)」、「川崎市スポーツ推進計画改定に伴う調査(スポーツ施設)」を実施しました。

調査の結果を踏まえ、本市のスポーツを取り巻く現状と課題を分析しました。アンケート及び調査の詳細については、資料編に記載しています。

#### (1) 「第2期スポーツ基本計画」について

スポーツ基本法に基づく第2期スポーツ推進計画は、平成29(2017)年度から平成33(2021)年度の5年間に於いて、スポーツ立国の実現を目指すための重要な指針として、平成29(2017)年3月に策定されました。

国が責任を持って取り組む施策を中心に定められていますが、国だけではなく、県や市町村、スポーツ団体や民間事業者で取り組むべき事項にも言及していることから、その内容を参酌し、本市スポーツ推進計画を改定する必要があります。

#### 【スポーツ基本計画(概要)】

計画期間	平成29(2017)年度～平成33(2021)年度
中長期的なスポーツ政策の基本方針	～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life ～ 1 スポーツで「人生」が変わる！ 2 スポーツで「社会」を変える！ 3 スポーツで「世界」とつながる！ 4 スポーツで「未来」を創る！
今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策	1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実 2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現 3 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備 4 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

また、第2期スポーツ基本計画のポイントは3点あげられます。

1つ目は「スポーツの価値の発信」として、「～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life～」などの言葉をスポーツ政策の基本方針として定めています。

2つ目は、第1期計画と比較し、大幅に成果指標を増加したことです。

3つ目は、障害者スポーツの振興や、スポーツの成長産業化など、平成27(2015)年10月のスポーツ庁創設後の重点施策を盛り込んだ点です。さらに、自治体に対しては、「スポーツを通じた活力ある社会づくり」、具体的には、健康増進や共生社会実現(ダイバーシティとインクルージョン)、経済・地域活性化に取り組むことが期待されています。

## (2) 神奈川県「スポーツ推進計画」について

東京2020大会への機運を一過性のものとせず、神奈川県全体で確実にスポーツの推進を図り、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができる地域社会を実現していくため、「神奈川県スポーツ推進条例（平成29（2017）年3月制定）」に基づき、県が各市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働しながらスポーツを推進するよう、総合的かつ計画的に取り組む施策を示した「神奈川県スポーツ推進計画」を策定しました。

### 【スポーツ推進計画（概要）】

計画期間	平成 29（2017）年～平成 37（2025）年度 ※「当面取り組む施策」は平成 32（2020）年度
基本理念	スポーツのあるまち・くらしづくり 県民一人ひとりが、それぞれの興味・関心、目的、体力や年齢、技能に応じて、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも運動・スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。
基本目標	誰もが、「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現
スポーツ推進の施策・事業体系	視点1：誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツ活動の推進 視点2：スポーツ活動を広げる環境づくりの推進 視点3：オリンピック・パラリンピックなどを盛り上げていく取組み

ポイントは、「かながわパラスポーツ（すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えること）」の考え方を県民一人ひとりと共有しながら、基本目標に掲げた「誰もが」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現」を目指していくというものです。

## (3) 本市の現状と課題

### 1) スポーツを「する」

「市民体育大会」や「川崎国際多摩川マラソン」をはじめ、各種スポーツ教室の開催など、市民がスポーツを身近に感じることができるよう、現計画に基づき、市民のスポーツ機会の拡充に向けて、様々な場面で取組を進めてきました。

#### ○市民のスポーツに対する取組

- ・アンケートの結果をみると、健康であると答えた市民は8割、体力に自信があると答えた市民は5割を超えており、前回調査と同様の傾向となっています。

図3 健康についてどう感じているか

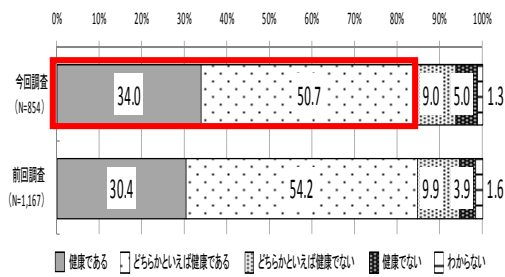
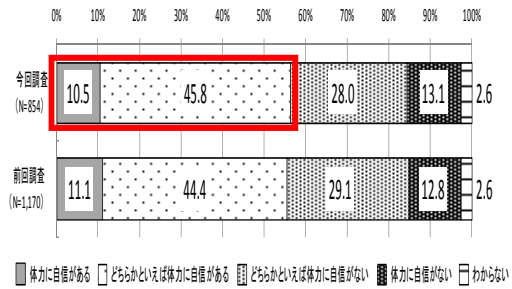
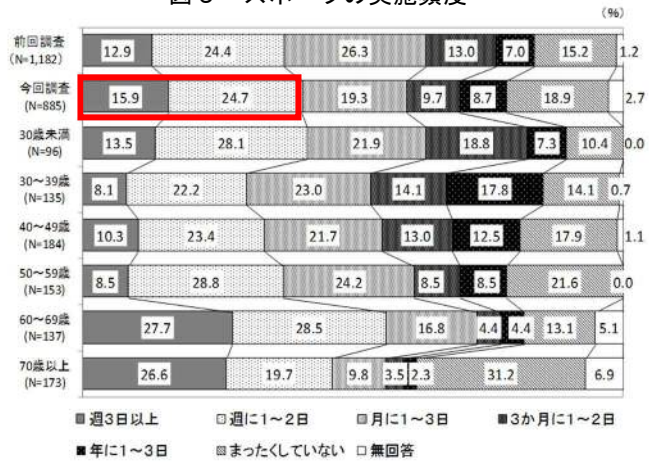


図4 体力の自信があるか



・週1日以上スポーツをしている市民の割合は40.6%となっており、前回調査(37.3%)から上昇していますが、全国平均の42.5%(平成28(2016)年度、スポーツ庁)と比較すると低く、特に30歳代、40歳代で低くなっています。

図5 スポーツの実施頻度



・運動不足を感じている市民の割合は79.1%と前回調査時(81.1%)と比較して2ポイント減少しています。年代別にみると、30、40歳代で特にその割合が高くなっています。

図6 普段、運動不足を感じているか

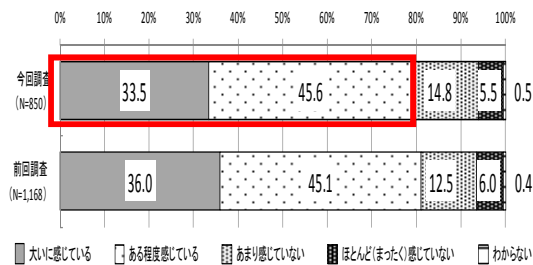
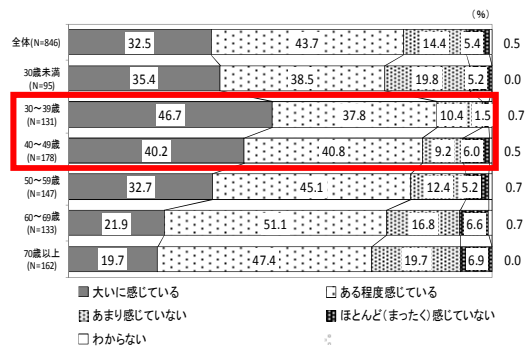
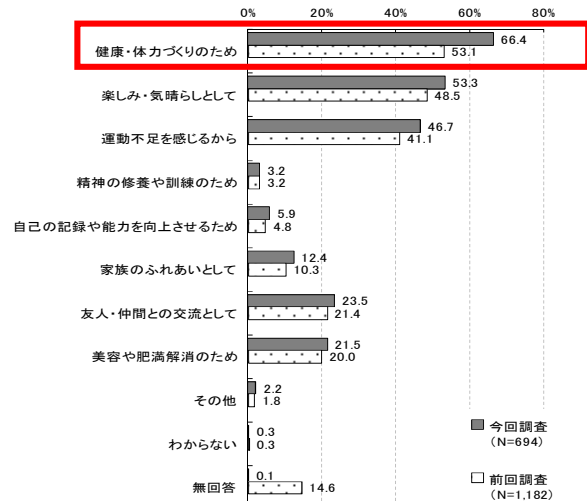


図7 年代別にみた運動不足を感じている割合



・スポーツをする主な理由は、「健康・体力づくり」「楽しみ・気晴らしとして」「運動不足を感じるから」に変更はありませんが、「健康・体力づくり」が大きく増加するなど、健康志向の割合が高くなっています。

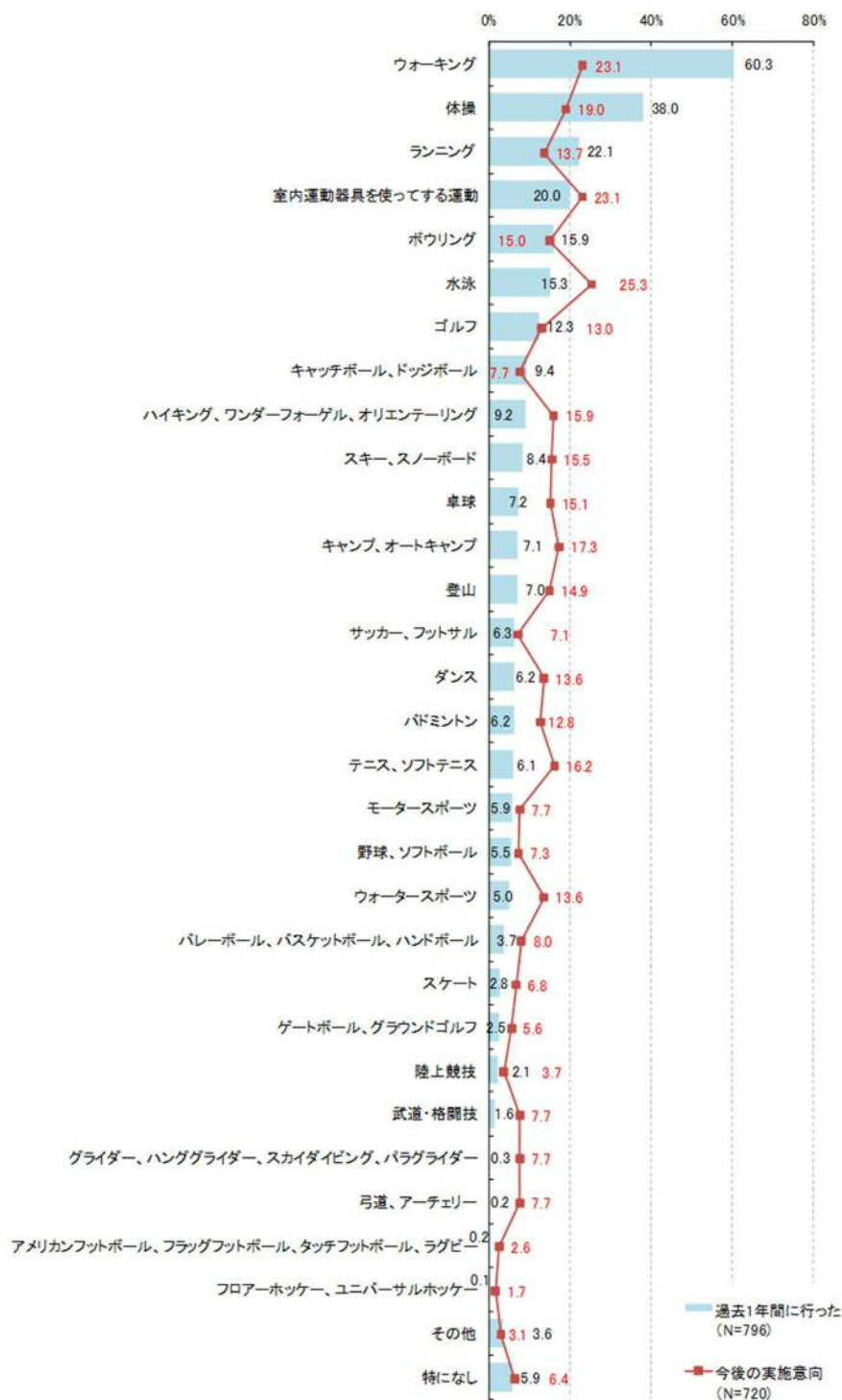
図8 スポーツを「する」主な理由





- ・過去1年間に行った運動・スポーツは、ウォーキング、体操、ランニングなど身近な場所で個人でも気軽に行える種目で実施の割合が高くなっています。今後の意向をみると、水泳、ウォーキング、室内運動器具を使って行う運動が高い傾向となっています。

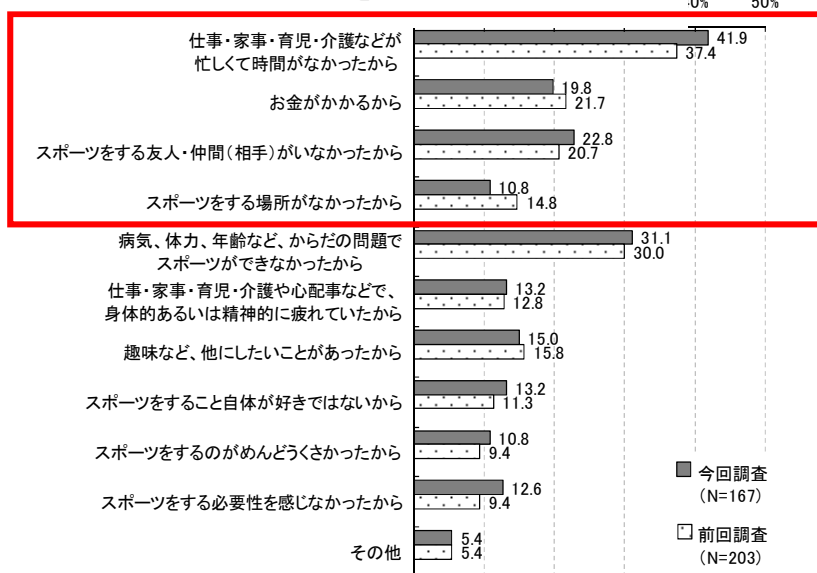
図9 1年間に行った／今後行ってみたい運動・スポーツ





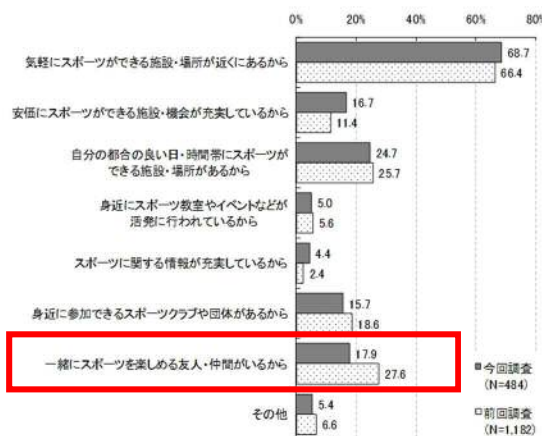
- この1年間にスポーツをしなかった主な理由としては、「スポーツをする場所がなかったから」、「お金がかかるから」が減少する一方、「仕事等で時間がなかったから」や「必要性を感じなかったから」、「友人や仲間がいなかったから」でそれぞれ増加しています。

図10 この1年間にスポーツをしなかった主な理由



- スポーツを気軽にできる環境にあると思う主な理由として、「一緒にスポーツを楽しめる友人・仲間がいるから」が大幅に減少しています。

図11 周りは、スポーツを気軽にできる環境にあると思う主な理由



- スポーツをする場所や金銭など、環境面の改善が見られるものの、個人の意識や周辺環境などが、スポーツを「しない」要因となっています。

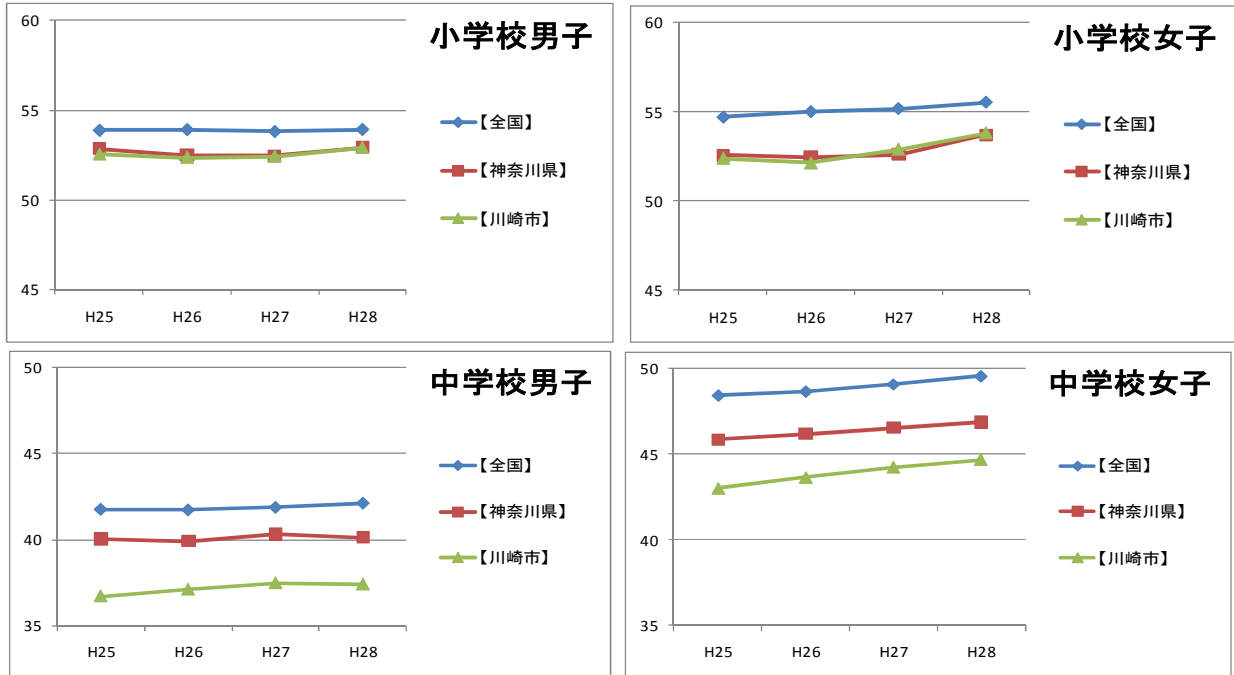
【現状を踏まえた課題】

○今後も、市民の健康であると感じている現状が維持できるよう、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージに応じて様々なスポーツや体力づくり・健康づくりに取り組む必要があります。また、スポーツを身近に親しむことができる機会・環境に加えて、一緒にスポーツを楽しめる友人、仲間づくりなどニーズや要因等を勘案した対応が求められます。

## ○子どものスポーツに対する取組

- ・スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、平成28（2016）年度の本市の体力合計点の平均は、全国平均を下回っていますが、ここ数年の推移で見ると、ゆるやかな上昇傾向にあります。

### 【体力合計点の推移】



資料：平成25・26・27・28年度 新体力テスト結果集計

- ・市内の中学生を対象としたアンケート調査では、「スポーツをすることが好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒は合わせて77.7%、「スポーツを観ることが好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒は合わせて73.8%となっています。

図12 スポーツをすることが好きか

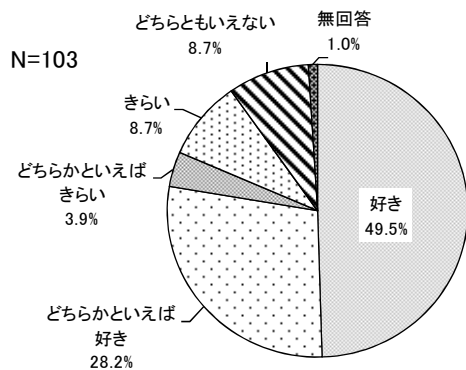
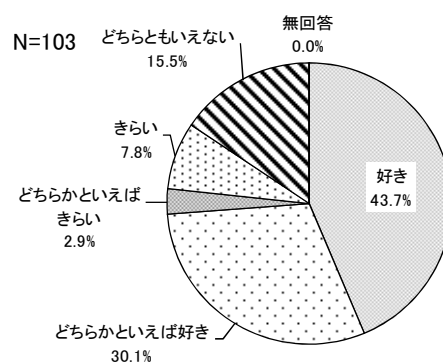


図13 スポーツを観ることが好きか



資料：スポーツに関する中学生アンケート（平成29年9月）

### 【現状を踏まえた課題】

- スポーツ人口を増やすために、若い世代のスポーツ離れを改善する取組がますます重要となります。運動が嫌いな児童生徒、運動する機会が少ない児童生徒にとっては、学校における保健体育の授業が体力向上に果たす役割が大きいことから、授業を通して運動の楽しさを子どもたちに十分に伝えていくとともに、学校全体として体力向上の意識の向上に取り組む必要があります。

## 2) スポーツを「観る」

トップチーム・トップアスリートのプレーを間近に観ることは、市民がスポーツを通じて感動と興奮を感じ、スポーツをはじめのきっかけづくりにつながります。

市内には、とどろきアリーナや等々力陸上競技場など国際大会や大規模スポーツイベントの会場として利用されている施設があります。等々力陸上競技場は、サッカーJリーグで活躍する川崎フロンターレのホームスタジアムであるとともに、大規模なスポーツ大会などが開催されてきました。

また、本市ではかわさきスポーツパートナーや関係機関、競技団体と連携し、ホームゲームの市民招待や、市民参加型イベントの開催などの観戦機会を提供しており、国内トップレベルの試合から国際的スポーツイベントまで身近に観戦することが可能となっています。



### かわさきスポーツパートナー

本市では、競技スポーツにおけるトップチームやトップアスリートが行う「川崎への愛着や誇り、連帯感を育むことなど、地域住民と一体となりまちづくりに寄与するスポーツ活動」を「ホームタウンスポーツ」と呼んでいます。

このホームタウンスポーツを推進するため、本市をホームタウンとして活躍するトップチームを「かわさきスポーツパートナー」として認定し、スポーツを楽しめるまちづくりや本市のイメージアップに取り組んでいます。

※平成 29 年 10 月現在

チーム名	種目	所属リーグ等
NECレッドロケッツ	女子バレーボール	Vリーグ
川崎フロンターレ	サッカー	Jリーグ
東芝ブレイブアレス	野球	(公財)日本野球連盟
川崎ブレイブサンダース	男子バスケットボール	Bリーグ
富士通フロンティアーズ	アメリカンフットボール	Xリーグ
富士通レッドウェーブ	女子バスケットボール	WJBL

- アンケートの結果をみると、スポーツを観ることが好きな市民は76.8%で前回調査時(77.6%)と同じ傾向となっています。直接観戦した市民は26.1%(本市内で直接観戦した市民は13.1%)と、全国平均の24.7%と比べて高く、また、年代が若い人ほど直接観戦が高い傾向にあります。

図14 スポーツを観るのが好きか

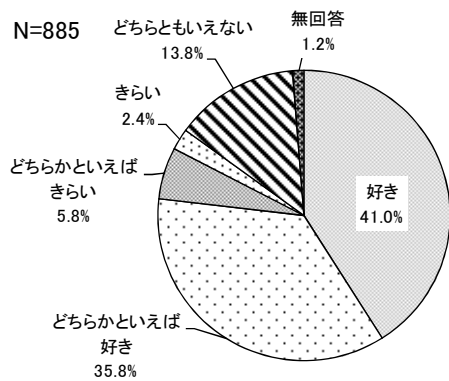


図15 この1年間でスポーツを何らかの形で観る機会

	合計	川崎市内の会場で観戦した	川崎市外の会場で観戦した	テレビ・インターネット等で観戦した	機会があれば観戦したいが観戦していない	関心がないため観戦していない	その他	わからない	無回答
全体	878	115	157	681	49	71	3	12	13
	100.0	13.1	17.9	77.6	5.6	8.1	0.3	1.4	1.5
30歳未満	96	10	31	69	6	8	0	0	1
	100.0	10.4	32.3	71.9	6.3	8.3	0.0	0.0	1.0
30~39歳	135	21	20	102	8	13	0	1	1
	100.0	15.6	14.8	75.6	5.9	9.6	0.0	0.7	0.7
40~49歳	184	39	44	145	11	15	0	3	0
	100.0	21.2	23.9	78.8	6.0	8.2	0.0	1.6	0.0
50~59歳	153	21	38	123	4	12	1	0	1
	100.0	13.7	24.8	80.4	2.6	7.8	0.7	0.0	0.7
60~69歳	137	8	13	107	8	10	1	1	4
	100.0	5.8	9.5	78.1	5.8	7.3	0.7	0.7	2.9
70歳以上	173	16	11	135	12	13	1	7	6
	100.0	9.2	6.4	78.0	6.9	7.5	0.6	4.0	3.5

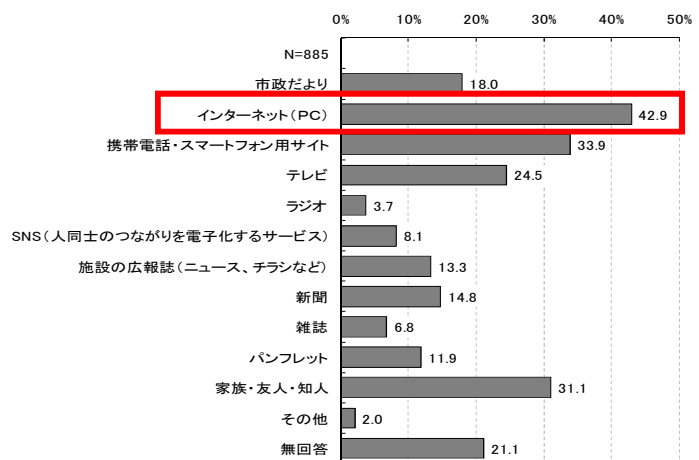
- また、「障害者スポーツ」を「観る」機会については、年齢が上がるにつれ、「テレビ・インターネット等での観戦」が高く、次いで、「機会があれば観戦したいが観戦していない」が高い割合を示しています。

図16 「障害者スポーツ」を観る機会

	合計	川崎市内の会場で観戦した	川崎市外の会場で観戦した	テレビ・インターネット等で観戦した	機会があれば観戦したいが観戦していない	関心がないため観戦していない	その他	わからない	無回答
全体	757	12	3	284	186	185	15	36	56
	100.0	1.6	0.4	37.5	24.6	24.4	2.0	4.8	7.4
30歳未満	82	1	0	16	27	32	2	4	2
	100.0	1.2	0.0	19.5	32.9	39.0	2.4	4.9	2.4
30~39歳	113	1	1	30	34	39	1	5	4
	100.0	0.9	0.9	26.5	30.1	34.5	0.9	4.4	3.5
40~49歳	160	3	2	49	41	44	2	10	11
	100.0	1.9	1.3	30.6	25.6	27.5	1.3	6.3	6.9
50~59歳	138	1	0	55	38	28	3	4	12
	100.0	0.7	0.0	39.9	27.5	20.3	2.2	2.9	8.7
60~69歳	118	1	0	51	25	27	1	5	12
	100.0	0.8	0.0	43.2	21.2	22.9	0.8	4.2	10.2
70歳以上	146	5	0	83	21	15	6	8	15
	100.0	3.4	0.0	56.8	14.4	10.3	4.1	5.5	10.3

- スポーツを観戦する時に利用する情報は、「インターネット(PC)」42.9%と高く、次いで、「携帯電話、スマートフォン用サイト」が33.9%と高い割合を示しています。

図17 スポーツを観戦する時に利用する情報



【現状を踏まえた課題】

○今後も大規模大会の誘致やかわさきスポーツパートナーと連携したイベントの開催等に取り組むとともに、HP等を活用した様々なスポーツ情報の発信を進め、多くの市民のスポーツ観戦につながる取組の充実が求められます。

### 3) スポーツを「支える」

#### ○本市のスポーツ環境

本市では、これまで等々力陸上競技場やとどろきアリーナのほか、多摩川河川敷を中心として市内各地に運動場・多目的広場などを整備するとともに、地域スポーツの拠点となるスポーツセンターを各区に設置し、市民のスポーツ機会の拡充を図ってきました。

- アンケートの結果をみると、周りにスポーツを気軽にできる環境があるかについて、あると思うという趣旨の回答は56.2%となっています。重要だと思うスポーツ施策では「いつでも、どこでも、誰もがスポーツ活動を気軽に出来るような活動場所の確保」が65.1%と最も多くなっており、前回調査時(76.6%)から10ポイントほど減少していますが、依然として高い割合となっています。

図 18 周りにスポーツを気軽にできる環境にあると思う

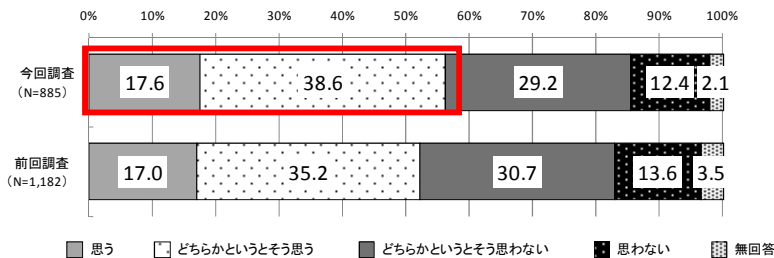
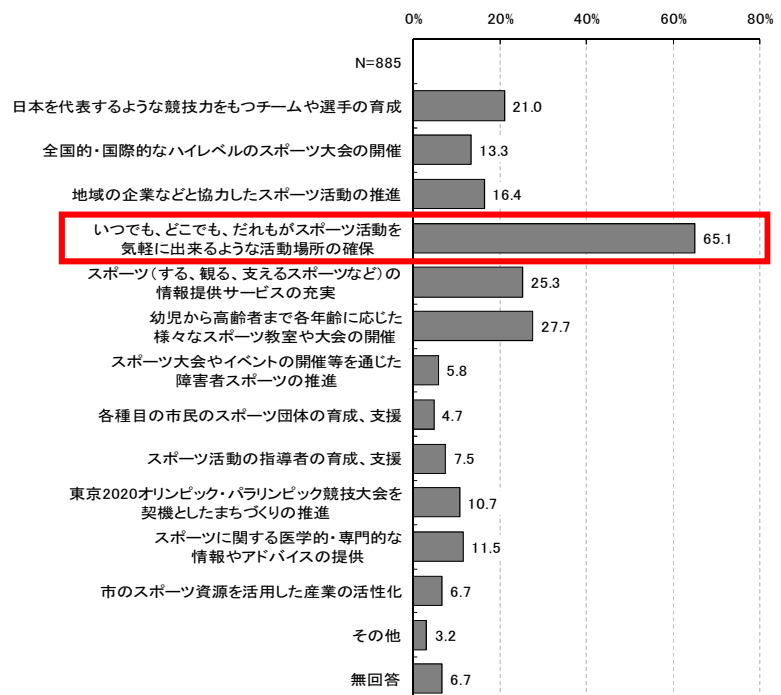


図 19 重要だと思うスポーツ振興施策



#### 【現状を踏まえた課題】

- 市街化区域が大部分を占める本市の現状から、既存の公共スポーツ施設や自然空間に加え、学校施設や民間の施設等を活用し、生活に身近な場所でスポーツを楽しめる環境の整備に取り組むことが重要といえます。

## ○指導者・ボランティア

「スポーツの楽しさを知る」、「スポーツを通じてコミュニケーションを取る」といったスポーツの魅力を経験するためには、適切な助言やサポートができる指導者の存在が重要です。また、教室や大会等の開催に向け、クラブや団体の運営スタッフなど、スポーツを支える活動やサポートは不可欠なものとなっています。

そのため、各競技団体による生涯スポーツの普及・振興や競技力の向上に向けて、関係団体と連携し、実技指導や講演会などによる指導者育成を進めています。また、「多摩川ランフェスタ in 川崎※」で、市民ボランティアが運営スタッフとして参加しています。

※川崎国際多摩川マラソンと多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

- アンケートの結果をみると、スポーツを支える活動に参加したことがある人は3.5%となっています。また、参加した人の中で市内で障害者スポーツを支える活動に参加した人は2割以下となっています。

図 20 スポーツを支える活動への参加

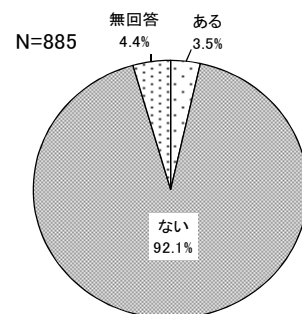
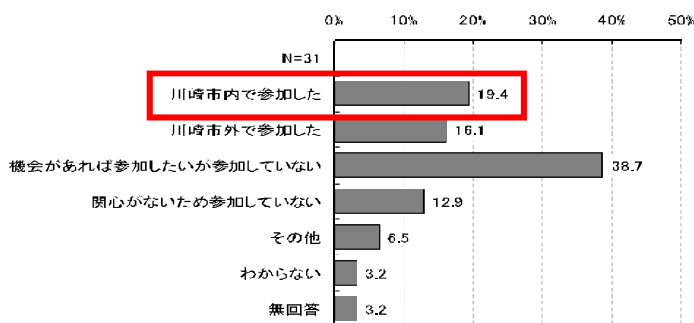


図 21 障害者スポーツを支える活動への参加割合



- スポーツを支える活動に参加したことがないのは、30代未満と70歳以上が多く、その理由としては、「機会がないから」「情報がないから」となっています。

図 22 この1年間で、スポーツを支える活動に参加したことはあるか

	合計	ある	ない	無回答
全体	878	31	812	35
	100.0	3.5	92.5	4.0
30歳未満	96	5	86	5
	100.0	5.2	89.6	5.2
30～39歳	135	4	126	3
	100.0	3.0	94.8	2.2
40～49歳	184	8	172	4
	100.0	4.3	93.5	2.2
50～59歳	153	3	148	2
	100.0	2.0	96.7	1.3
60～69歳	137	3	129	5
	100.0	2.2	94.2	3.6
70歳以上	173	8	149	16
	100.0	4.6	86.1	9.2

図 23 参加しない理由

	合計	機会がないから	知識・技術がないから	情報がないから	健康や体力に自信がないから	時間がなから	参加の仕方がわからないから	関心がないから	その他	わからない	無回答
全体	812	420	190	302	127	284	207	245	16	21	3
	100.0	51.7	23.4	37.2	15.6	35.0	25.5	30.2	2.0	2.6	0.4
30歳未満	86	56	23	41	9	34	27	34	3	2	0
	100.0	65.1	26.7	47.7	10.5	39.5	31.4	39.5	3.5	2.3	0.0
30～39歳	128	68	23	56	13	63	41	39	3	3	0
	100.0	53.1	18.0	43.8	10.2	49.2	32.0	30.5	2.3	2.3	0.0
40～49歳	172	96	43	63	23	77	51	59	2	4	0
	100.0	55.8	25.0	36.6	13.4	44.8	29.7	34.3	1.2	2.3	0.0
50～59歳	148	84	34	62	16	56	39	43	1	1	0
	100.0	56.8	23.0	41.9	10.8	37.8	26.4	29.1	0.7	0.7	0.0
60～69歳	129	60	33	46	24	35	23	38	1	2	2
	100.0	46.5	25.6	35.7	18.6	27.1	17.8	29.5	0.8	1.6	1.6
70歳以上	149	56	34	34	42	19	26	32	6	9	1
	100.0	37.6	22.8	22.8	28.2	12.8	17.4	21.5	4.0	6.0	0.7

### 【現状を踏まえた課題】

- 各団体と連携を図り、指導者や運営スタッフ、ボランティア等の活用の拡充に向けた検討や人材育成に取り組むとともに、団体間の連携を図り、地域のスポーツ活動や市民主体の活動を促進し、より多くの市民が様々なかたちでスポーツに関わる機会を拡充していくことが重要となります。

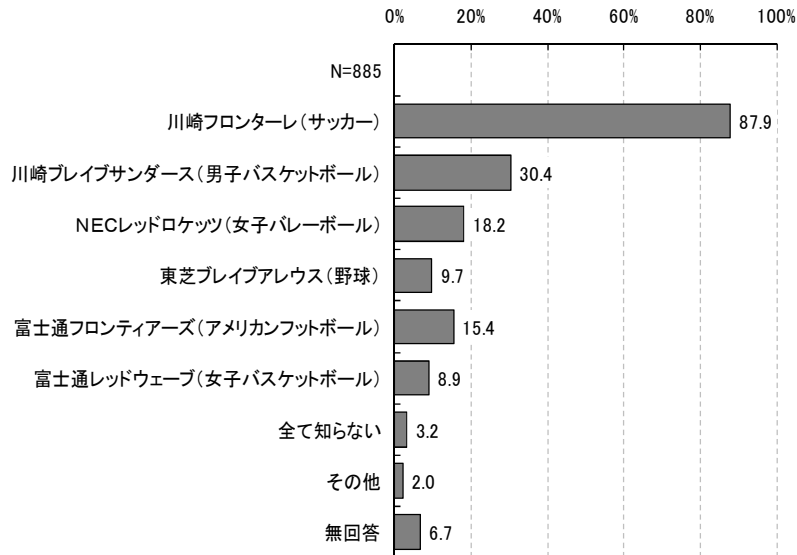


#### 4) スポーツを通じた地域づくり

本市は、スポーツの持つ効果に着目し、スポーツを通じた「子どもの健全育成」や「地域の活性化」、「本市の魅力づくり」など様々な施策に取り組んでいます。

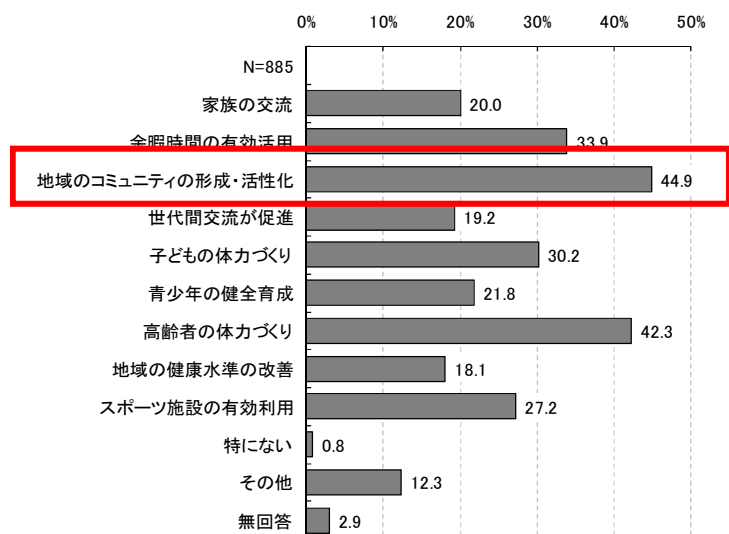
- ・アンケートの結果をみると、回答があった中で、本市を拠点（ホームタウン）とするトップレベルのスポーツチームいずれかを知っている人は95%以上となっています。

図 24 本市を拠点（ホームタウン）とするトップレベルのスポーツチームの認知度



- ・また、地域におけるスポーツ活動への期待として「地域コミュニティの形成・活性化」が最も多くなっています。

図 25 地域におけるスポーツ活動への期待



- ・総合型地域スポーツクラブは、年代が若くなるにつれて、クラブの認知度が低くなる傾向にあります。

図 26 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度

	合計	よく知っている	少し知っている	名前は聞いたことがある	まったく知らない	その他	無回答
全体	878 100.0	6 0.7	70 8.0	104 11.8	669 76.2	2 0.2	27 3.1
30歳未満	96 100.0	1 1.0	2 2.1	10 10.4	81 84.4	0 0.0	2 2.1
30～39歳	135 100.0	0 0.0	6 4.4	14 10.4	110 81.5	0 0.0	5 3.7
40～49歳	184 100.0	2 1.1	18 9.8	14 7.6	148 80.4	0 0.0	2 1.1
50～59歳	153 100.0	2 1.3	11 7.2	20 13.1	120 78.4	0 0.0	0 0.0
60～69歳	137 100.0	1 0.7	11 8.0	19 13.9	100 73.0	2 1.5	4 2.9
70歳以上	173 100.0	0 0.0	22 12.7	15 8.6	110 63.6	0 0.0	14 8.1



### 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）は、同じ地域の住民が会員となり、それぞれが役割を担いながら、会費制によって自主運営されるクラブです。

総合型クラブでは、様々な人たちが、いろいろな活動をその興味やレベルに応じて各自のスタイルで楽しむことができ、スポーツだけでなく社会・文化活動、地域課題の解決への貢献などを行い、地域コミュニティの核となるクラブが理想とされています。

平成 29（2017）年 10 月現在、市内では、11 の総合型地域スポーツクラブが活動しています。

#### 【現状を踏まえた課題】

○今後も市内の各競技団体、協会や地域の団体等と連携し、本市の魅力となるトップレベルのスポーツを推進するとともに、地域でのスポーツ活動への参加機会を充実し、スポーツを通じたコミュニティの形成や地域づくりの取組の機会を充実していくことが求められます。また、地域における市民参加等の取組を拡充し、運動やスポーツの習慣づけを行うことで、市民の健康づくりに寄与する施策を展開していくことが重要となります。



## 4 スポーツ推進に向けた取組の方向性

平成 24（2012）年に川崎市スポーツ推進計画を策定した後、東京 2020 大会の開催決定や、スポーツの振興やスポーツ施策の総合的な推進を図るためスポーツ庁が設置されるなど、スポーツを取り巻く環境は大きく変化し、平成 29（2017）年 3 月には、スポーツ庁により「第 2 期スポーツ基本計画」が策定されました。

本市のスポーツ環境を取り巻く現状と課題等を踏まえ、今後のスポーツ施策を推進するにあたっての取組の方向性として、次の 5 点が挙げられます。

### （1）スポーツを身近に親しめる環境づくり ⇒ 基本方針 1

スポーツは多くの人を惹きつける魅力的なコンテンツとして、国においてもその役割が大きく期待されています。「する」「観る」「支える」の様々な形で、全ての人々が気軽にスポーツに取り組める環境づくりが重要です。

### （2）生涯にわたって、誰もがスポーツを楽しめる機会の充実 ⇒ 基本方針 2

本市においても、平成 32（2020）年には「超高齢社会」を迎えることが見込まれる中、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、多様なニーズに応じて、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、そして楽しむ機会の充実が重要です。

### （3）スポーツを通じた地域での交流等の機会の充実 ⇒ 基本方針 3

都市化の進展に伴い、地域や近隣住民とのつながりを感じにくく安心感が希薄化する中、スポーツの様々な効果を活用し、地域コミュニティの醸成、地域の活性化といった市民の参加・交流の機会拡充や、生きがいつくり、また、ライフスタイルの変化に応じたスポーツ・運動の習慣づくりが重要です。

### （4）競技スポーツの推進 ⇒ 基本方針 4

東京 2020 大会等に向けて、スポーツの競技人口の増加が見込まれることから、市内で積極的に活動する各種スポーツ団体の技術力の向上や、記録・目標の達成に向けた競技力の強化、適切な指導・助言を行うことができる専門性の高い人材の育成等に取り組むことが重要です。

### （5）スポーツを通じた魅力あるまちづくり ⇒ 基本方針 5

東京 2020 大会、またその先の市制 100 周年を目指して、スポーツを通じた川崎の都市イメージの向上や魅力の向上・発信に取り組むとともに、観光や教育などの各分野と連携し、効果を高め、活力にあふれた魅力あるまちづくりを進めることが重要です。

## 第3章 計画の基本的事項

### 1 基本理念

#### ～川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく。～

子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルで活躍するアスリートまで、市民一人ひとりがスポーツを身近に感じ、もっと楽しむことができるようスポーツを推進していくとともに、スポーツがまちに活力を与え、川崎がもっと魅力あふれる楽しいまちになるよう「川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく。」というキャッチフレーズのもと、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりに取り組んでいきます。

#### キーワードは「楽しく。」

本計画は、「スポーツのまち・かわさき」を掲げる本市が、スポーツの推進に向けて定めた分野別計画となります。

しかし、「スポーツのまち・かわさき」は、ここに挙げる施策や事業を行政が行うだけでは実現できません。そこには、市民をはじめ、地域のスポーツ団体やクラブ、プロチーム、実業団、企業など様々な立場の方々に関わっていただくことが引き続き必要となります。市民や各団体が連携・協働し、手を携えることによって、初めてその効果が十分に発揮されます。

スポーツに関わる全ての人たちが、共感し、共鳴し、この場所でスポーツのまちをつくるために共に歩んでほしいという思いを「楽しく」という言葉に込め、基本理念を定めました。

これは、「みんな“楽しい”からこそスポーツをする、観る、支える」という原点を忘れずに、もっと身近に、生涯にわたって「スポーツを“楽しむ”ことができるよう取組を展開していくこと」、そしてスポーツに携わる全ての市民・団体と連携・協働して、「スポーツで川崎を“楽しく”していこう」という思いを表現しています。

## 2 基本目標

基本理念の実現に向けて、東京 2020 大会や、平成 36（2024）年の市制 100 周年、さらにその先の未来を目指し、5つの基本方針に先立つ2つの基本目標を設定します。

### 基本目標 1 スポーツを通じて誰もが自分らしく暮らし、支え合える社会を実現しよう

日本では、少子高齢化、人口減少社会が進む中、本市においても、平成 32（2020）年には「超高齢社会」を迎えることが見込まれ、高齢化の進行による、心身に障害を持つ人や介護が必要な人が増えることが想定されます。

持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少社会を見据え、一人ひとりが尊重され、能力を発揮することができる環境づくりを進めていくことが大変重要となります。

本市では、東京 2020 大会を契機とした、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、東京 2020 大会に向けた本市の取組の方向性や目指すべきレガシー（遺産）を明らかにし、市民と共有するとともに、計画的に取組を推進するため、平成 28（2016）年 3 月に「かわさきパラムーブメント推進ビジョン（以下「推進ビジョン」という。）」を策定しました。

推進ビジョンでは、メインコンセプトとして「かわさきパラムーブメント」を掲げ、パラリンピックを未来につながるダイバーシティ（多様性）とソーシャル・インクルージョン※（社会的包摂）の象徴と捉え、パラリンピックに重点を置くという方針を打ち出しています。

障害のある方の自己実現・社会参加の手段として障害者スポーツを推進するとともに、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、発想の転換が必要であるという心のバリアフリーにつなげていくことも必要となります。

こうしたことから、誰もがスポーツに親しめる環境を創出することにより、将来の課題を先取りし、子どもから高齢者まで、性別や障害のあるなしに関わらず、市民の一人ひとりが尊重され、健康で明るく、生きがいを持って、生き活きと豊かに暮らすことができる、多様性を尊重した、誰もが排除されない社会の実現を目指します。

※ソーシャル・インクルージョン：「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」こと

出典：平成 12 年厚生省「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書

### 基本目標 2 スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てよう

本市が、スポーツのまちとして今後さらに発展していくためには、一人でも多くの市民がスポーツを楽しむ必要があります。

そのため、本市では、次世代を担う子どもが一人でも多く、スポーツ好きの子どもとして育てていくことで、将来、スポーツ好きの市民であふれ元気で活力のあるまちを目指します。

町内会・子ども会など地域社会が行うスポーツを通じた子どもの育成を支援するとともに、学校スポーツ（体育や運動部活動など）、市内スポーツ団体（市内の種目別競技団体や総合型地域スポーツクラブなど）、トップレベルのスポーツチームであるかわさきスポーツパートナーなどが連携し、スポーツの魅力・楽しさを子どもに伝え、スポーツ好きにさせるためのアプローチを地域ぐるみで展開します。

川崎でともに暮らす幅広い世代がスポーツを通じて子どもに関わり、スポーツで子どもを育てることで、子どもたちが成長し大人になってからも「する・観る・支える」など多様な形でスポーツに関わり、スポーツのまちを支える人材を育てていきます。

### 3 5つの基本方針

基本理念と基本目標の実現に向けた、今後の「スポーツのまち・かわさき」として目指す姿・今後の方向性を次の5つに分類し、基本方針として次のとおり定めます。

本計画は、「スポーツのまち・かわさき」の具体像を示し、個別のスポーツ（関連）事業をスポーツのまちの具現化に向けた事業として捉え、総合的・体系的に位置付けることによって、効果的・効率的に取組を推進します。

また、進行管理を着実にを行うために、成果指標を基本方針毎に設定します。

#### **基本方針1** スポーツを身近に親しむことができるまち

市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、スポーツを身近に感じることができるまちを目指し、スポーツを「する」、「観る」、「支える」観点から、機会の拡充、安全を確保した環境づくりに取り組みます。

#### **基本方針2** 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができ、体力の維持向上や健やかな心身を育むことができるまちを目指します。

そのために、市民の体力や年齢、興味・関心の変化などに応じ、子どもから高齢者までライフステージに対応した多様なスポーツ施策を展開します。

#### **基本方針3** スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち

スポーツには、お互いを知り合い交流を深めるきっかけとなるだけでなく、地域においてコミュニティを形成し、現代社会で希薄となった住民同士の関わりを生み出す効果も期待されます。こうしたスポーツの効果を活用し、スポーツを通し、地域でともに暮らす仲間とのふれあいやコミュニケーションを楽しみ、地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるまちを目指します。

#### **基本方針4** スポーツに挑戦する喜びがあるまち

各種スポーツにおける技術力向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化などを行い、スポーツに挑戦し、その成果を発揮することができるまちを目指します。

#### **基本方針5** スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち

川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携を図るなど、地域活動や地域の活力を高める取組を推進し、スポーツを通して、誰もが川崎の魅力・活力が感じられるまちを目指します。

## 4 全体構成

### 基本理念

子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルで活躍するアスリートまで、市民一人ひとりがスポーツを身近に感じ、もっと楽しむことができるようスポーツを推進していくとともに、スポーツがまちに活力を与え、川崎がもっと魅力あふれる楽しいまちになるよう「川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく。」というキャッチフレーズのもと、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりに取り組んでいきます。

### 基本目標

#### 基本目標 1

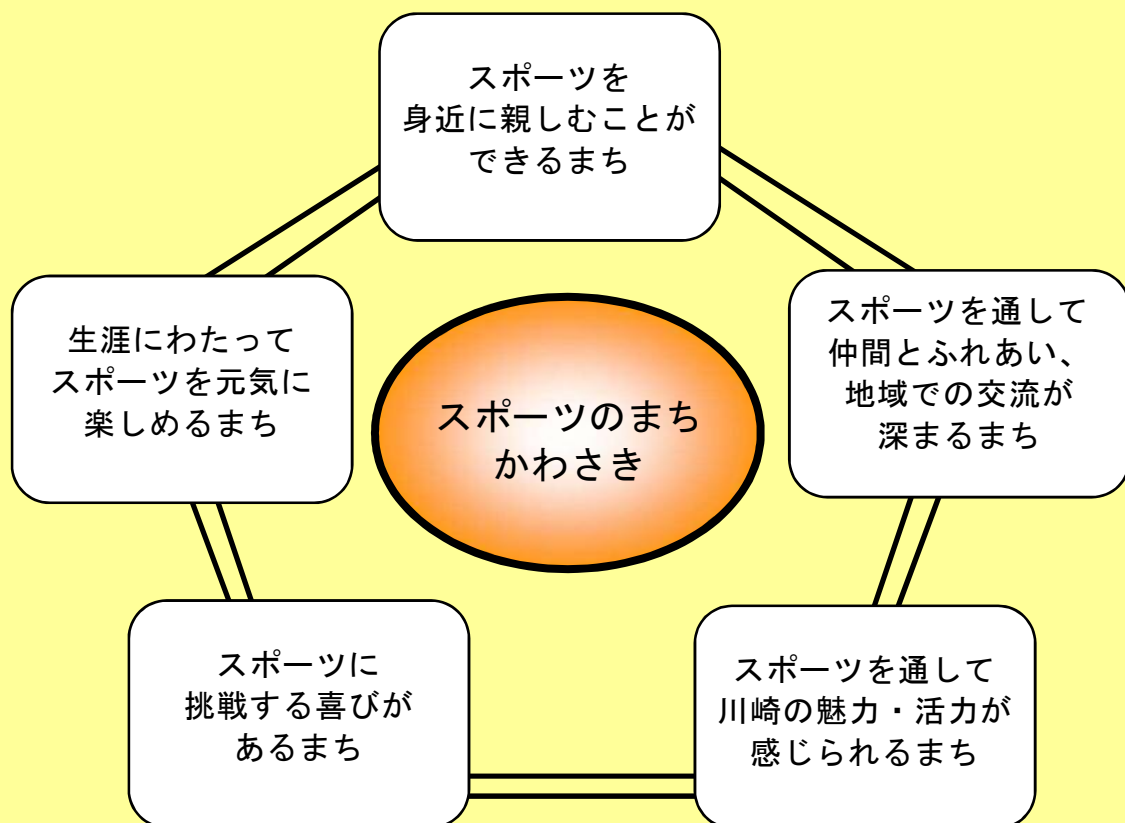
スポーツを通じて誰もが自分らしく暮らし、支え合える社会を実現しよう

#### 基本目標 2

スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てよう

### 基本方針

川崎の特長と強みを活かしながら、市民の誰もがスポーツを楽しむことのできる、5つの「スポーツのまち」をつくります。



## 施策体系

### 基本方針 1 スポーツを身近に親しむことができるまち

#### 基本施策

- (1) スポーツを「する」機会の充実
- (2) スポーツを「観る」機会の創出
- (3) スポーツを「支える」人材の育成
- (4) 身近な公共スポーツ環境の充実
- (5) スポーツ関係団体との連携・支援
- (6) スポーツ情報の提供
- (7) スポーツの安全確保

### 基本方針 2 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

#### 基本施策

- (1) 乳幼児期の運動遊びの推進
- (2) 子どものスポーツの推進と体力向上に向けた取組
- (3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (5) 障害者スポーツの推進

### 基本方針 3 スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち

#### 基本施策

- (1) 総合型地域スポーツクラブの充実
- (2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進
- (3) 運動の習慣づけの促進

### 基本方針 4 スポーツに挑戦する喜びがあるまち

#### 基本施策

- (1) 次世代アスリートの強化・育成
- (2) 指導力の向上
- (3) 各種スポーツ大会の開催・参加
- (4) 公共スポーツ施設の機能向上

### 基本方針 5 スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち

#### 基本施策

- (1) ホームタウンスポーツの推進
- (2) スポーツを通じた本市の魅力発信
- (3) スポーツによる地域経済の活性化
- (4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

## 第4章 基本施策

### 基本方針1 スポーツを身近に親しむことができるまち

○ 市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、スポーツを身近に感じることができるまちを目指し、「する」「観る」「支える」観点から、機会の拡充、安全を確保した環境づくりに取り組みます。

#### 【基本方針に基づく7つの基本施策】

- (1) スポーツを「する」機会の充実
- (2) スポーツを「観る」機会の創出
- (3) スポーツを「支える」人材の育成
- (4) 身近な公共スポーツ環境の充実
- (5) スポーツ関係団体との連携・支援
- (6) スポーツ情報の提供
- (7) スポーツの安全確保

■ 成果指標 (※成果指標は、現在策定作業中の総合計画第2期実施計画の成果指標の目標値の考え方等と今後整合を図りながら、決定します。)

成果指標名	現状	目標値
週1回以上のスポーツ実施率 (市民アンケート)	40.6 % (平成29年度)	42.5 %以上 (平成33年度)
年1回以上の直接観戦率 (市民アンケート)	26.1 % (平成29年度)	33.0 %以上 (平成33年度)
スポーツを支える活動に 年1回以上参加した人の割合 (市民アンケート)	3.5 % (平成29年度)	8.0 %以上 (平成33年度)
スポーツセンター等施設利用者数 (市民文化局調べ)	259.9万人 (平成28年度)	276万人以上 (平成33年度)
「多摩川ランフェスタ in 川崎」※における ボランティアに占める障害のある方の割合 (市民文化局調べ)	5.7% (平成28年度)	6.2 %以上 (平成33年度)
「多摩川ランフェスタ in 川崎」※における ボランティアに占める ボランティアリーダーの割合 (市民文化局調べ)	8.6% (平成28年度)	10.0 %以上 (平成33年度)

※川崎国際多摩川マラソンと多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

#### (1) スポーツを「する」機会の充実

スポーツには多種多様な種目があり、種目によって面白み、醍醐味が異なります。

一人でも多くの市民がその時々ニーズに合ったスポーツに出会い、生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、初心者向けスポーツ教室やスポーツ施設の無料開放、普段体験することができないスポーツ種目の体験会などを開催し、より多くの市民が多様なスポーツに触れる機会の充実を図ります。

また、日頃の成果を発揮する場として幅広い種目で市民スポーツ大会を開催します。

◆スポーツを始めるきっかけづくり

主な取組	概要
初心者向けスポーツ教室	各区のスポーツセンターを中心に、初心者向けの教室やビギナープログラムを提供し、市民がスポーツに触れ、その魅力を楽しむ機会を提供します。
「体育の日」記念事業	スポーツに親しみ、健康な心身を培うため定められた「体育の日」を記念し、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の無料開放やイベント等を開催します。
市民体カテストの集い	市民が自らの体力を知り、スポーツを日常的に行うきっかけとするため、全国共通の「体カテスト」を各区において開催します。
地域における障害者スポーツの普及促進	子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントや障害に対する意識啓発、理解促進のための講習会などを通じて、誰もがスポーツに楽しめる環境づくりに取り組みます。



**市民体カテスト**

昭和 39 年から行われてきたスポーツテストを改定し、現在は「新体カテスト」として小学生（6～11 歳）、青少年（12～19 歳）、成人（20～64 歳）、高齢者（65～79 歳）の区分で行われている全国共通の体カテストです。

自分の体力を継続的に把握し比較することができるように、握力・上体起こし・長座体前屈など、各年齢層で共通のテスト項目が設定されています。

◆多様なスポーツに触れる機会の充実

主な取組	概要
市内の貴重なスポーツ資源の活用 ・カヌー教室 ・ビーチバレー教室 ・相撲	多摩川でカヌー体験教室を開催し、カヌーの操作技術や水上事故発生時の緊急対応を学ぶとともに、多摩川の自然と親しむ機会を提供します。また、マリエンのビーチバレーコートや、富士見相撲場を活用し、関係団体と連携しながらスポーツイベント・行事を開催します。
ニュースポーツ・スポーツ・レクリエーションの普及振興	体を動かす楽しさを気軽に感じることができるよう、カローリングなどのニュースポーツの体験会や、川崎市レクリエーション連盟主催のスポーツ・レクリエーション体験会などの開催を支援します。

◆成果を発揮する機会の充実

主な取組	概要
市民体育大会	生涯スポーツの意識高揚や健康増進、体力の向上を目的として、陸上競技や球技、体操など様々な種目で広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。
川崎国際多摩川マラソン	多摩川の自然を身近に感じながら競技を楽しむことができ、スポーツ意識の高揚や健康増進などに寄与するマラソン大会を開催します。子どもから大人まで幅広い世代が、自分のスキルや体力に合わせて参加できるように、ハーフマラソンの部をはじめ、初心者も参加できる 10 km の部、3 km の部やファミリーファンランニングの部（1 km）など、様々な種目を設定した大会とします。



<p>多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎</p>	<p>走る爽快感、タスキをつなぐ楽しさなど駅伝の醍醐味を感じてもらえるよう、多摩川河川敷を活用した駅伝大会を開催します。 家族や友人、会社の同僚など様々なチーム編成での参加により、駅伝競技を通じて走る楽しさやチーム内の親睦、結びつきの強まりなどを感じてもらえる、子どもから大人まで幅広い世代に親しまれる大会とします。</p>
------------------------------	--

## (2) スポーツを「観る」機会の創出

多くの人にとって、スポーツを‘観る’ことは最も手軽で身近なスポーツとの関わり方です。競技レベルの高いプロスポーツ等の試合を観戦することは、その醍醐味を直接肌で感じることができ、観戦者に夢や感動を与え、スポーツへの関心や意欲を高めます。

本市には、サッカー（川崎フロンターレ）やバスケットボール（川崎ブレイブサンダース）などのプロスポーツをはじめ、バレーボールなど国内有数の競技チーム・アスリートが活動拠点を置いており、それらのハイレベルな試合が年間を通じて観戦することができます。

スポーツに対する憧れや興味を育み、スポーツへの関心を高めていくため、ホームゲームへの市民招待や関連情報の提供などを通じて、トップチームや選手のプレーを観ることができ、スポーツの魅力を肌で感じられるような取組を展開します。

主な取組	概要
<p>「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待</p>	<p>川崎市をホームタウンとして活躍する「川崎ブレイブサンダース」をはじめとする「かわさきスポーツパートナー」の試合に市民を招待し、スポーツ観戦の醍醐味を直接肌で感じることができる機会を提供します。 また、7月1日の市制記念日前後に開催される川崎フロンターレのホームゲームを「川崎市制記念試合」とし、市民招待を行います。</p>
<p>アメリカンフットボール公式戦への市民招待</p>	<p>川崎市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグのXリーグ（日本社会人アメリカンフットボールリーグ）や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。</p>
<p>国内最高峰・全国規模の競技・スポーツ大会の開催</p>	<p>ビーチバレーの魅力をもっと市民に感じてもらうための国内最高峰のビーチバレー公式戦や、国内外のトップクラスの選手が参加するトランポリン競技大会を開催します。 また、障害者スポーツの魅力を知ってもらうため、「日本アンパティサッカー選手権」をはじめ、「ブラインドサッカークラブチーム選手権」、「ジャパンデフバレーボールカップ」などの全国規模の障害者スポーツ大会の開催を支援します。</p>

### (3) スポーツを「支える」人材の育成

スポーツの楽しさに気づき、自らスポーツ活動を積極的に行っていこうという思いを育てることは不可欠です。また、スポーツが地域に根つき、地域で自主的なスポーツ活動を活性化させていくためには、その活動を支える指導者やボランティアが必要です。

市民が幅広くスポーツに親しむ機会を提供するため、市民のニーズに対応した指導者の育成や資質向上に努めるとともに、スポーツ活動の企画や運営を支えるスタッフ・ボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に努めます。

主な取組	概要
競技指導者等の育成支援	川崎市スポーツ協会と連携し、市内の種目別競技団体が行う指導者の育成事業を支援します。また、川崎市障害者スポーツ協会や川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。
スポーツ推進委員の資質向上	市内各地区での研修会や講習会を開催し、スポーツ推進委員の資質の向上を図ります。また、神奈川県研修会や関東研究大会、全国研究協議会等への参加を支援します。
健康づくりのためのボランティアの養成・連携	各区の特性を活かし、運動等を通して地域密着型の健康づくりに取り組み運動普及推進員等の健康づくりボランティアを養成するとともに、連携しながら体操やウォーキングなどの普及に取り組みます。
スポーツボランティア人材の育成	各種スポーツ大会が地域主体で実施できるよう、大規模スポーツ大会を通じたボランティア人材の育成等を進めます。
川崎市スポーツ賞	指導者やスタッフとしてスポーツの普及・振興に顕著な功績を残した市民に川崎市スポーツ賞を贈呈します。



#### スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に規定された非常勤の公務員で、地域におけるスポーツの推進役として、地域住民に対する指導・助言を行っています。

また、地域のスポーツ施策の企画立案、スポーツ活動の調整を図るコーディネーター的役割も担っています。

本市では、各区にスポーツ推進委員会を組織しており、市全体のスポーツ推進委員連絡協議会を設置しています。現在 400 名を超える委員が活動しており、各地区で運動会やスポーツ大会を企画・運営したり、市民向けの体力テストを実施したりしています。

(平成 29 年 10 月現在)



#### 運動普及推進員（ヘルスパートナー）

地域住民に運動等を通じて健康づくりを普及・推進するためのボランティアです。各区保健福祉センターと協働し健康づくりを進めるため市内各地で活動しています。

#### (4) 身近な公共スポーツ環境の充実

誰もが気軽にスポーツに親しみ、スポーツや健康づくりを習慣にするため、身近なスポーツ環境の充実が必要となります。

市民が身近な場所でスポーツを楽しむことのできるよう、各区スポーツセンター等の既存の公共スポーツ施設や自然空間に加え、学校施設を地域に開かれたスポーツ施設として有効活用するほか、民間企業、大学等が所有する既存のスポーツ施設などについても、協定等に基づき、市民のスポーツ活動の場として確保を図ります。

既存の公共スポーツ施設については、より快適なスポーツ環境を提供するため、計画的な維持改修により施設・設備を適正に管理するとともに、施設の特徴に応じて、効果的・効率的な施設の運営と利活用を進めます。

多様なスポーツの場の創出に向けて、引き続き、既存の公共施設や河川等の自然空間の利用に加えて、パークマネジメントと連携したスポーツ施策の検討など、資産の有効活用を進めます。

#### ◆拠点公園・緑地の再編整備

	主な取組	概要
富士見公園	スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）の運営	富士見公園の整備にあわせて、スポーツ・文化・レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、体育館機能として県大会や市民大会が開催できる 1,500 席程度の客席を持った大体育室や、柔道や剣道のできる多目的室、弓道場（和弓・洋弓）等を備えたスポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）を整備し、平成 29 年 10 月から利用開始した施設の管理・運営を行います。
	川崎競輪場の再整備	公園との調和に配慮したうえで、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な利用が可能な市民に親しまれる競輪場として再整備します。 市民に競輪を身近に感じてもらえるように、トレーニングルームの利用など、競輪場施設の活用を通じて、市民の健康増進、サイクルスポーツの普及に取り組みます。
等々力緑地	公園緑地資源の有効活用	首都圏の中央に位置し、周辺には鉄道などの公共交通機関網が発達する立地や、プロスポーツを開催できる施設の機能・規模等、等々力緑地の持つポテンシャルを最大限に活かしながら、更なる魅力を発信するため、緑地内施設の維持管理業務のほか、陸上競技場第 2 期整備をはじめとする施設整備において、都市公園法の改正を踏まえつつ、指定管理者制度や P F I、公共施設等運営権事業等の手法及びその複合的活用を含め、民間活力導入に向けた検討を進めます。
	等々力陸上競技場の第 2 期整備	等々力陸上競技場第 2 期整備（サイド・バックスタンドの整備）について、各種競技を開催するための基準や要望等の課題整理、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを総合的に検証しながら、施設の安全性や機能向上に向け、整備を推進します。
	等々力硬式野球場の再整備	高校野球や社会人野球などの大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上に向け、整備を推進します。

	とどろきアリーナの長寿命化	市内最大の屋内スポーツ施設であるとどろきアリーナについて、中長期保全計画に基づく計画的な維持補修を行い、ライフサイクルコストを縮減・平準化した施設の長寿命化を推進します。
多摩川緑地	上平間・古市場地区の施設の再整備	多摩川の多目的広場等の施設には様々なスポーツ利用における市民ニーズの変化が見られることから、利用者のニーズにあった既存施設の最適化を推進します。
生田緑地	川崎国際生田緑地ゴルフ場における指定管理者制度の活用	市内唯一の公営パブリックゴルフコースである川崎国際生田緑地ゴルフ場において、指定管理者による民間事業者の創意工夫を活かしたサービスの向上を図ります。

#### ◆整備スケジュール

年度	H30	H31	H32	H33	H34～
川崎競輪場	将来のコンパクト化の検討				
等々力 硬式野球場	野球場整備				
多摩川緑地 上平間・ 古市場地区	施設の再整備				
川崎国際生田 緑地ゴルフ場	指定管理者制度の活用				

※等々力陸上競技場の整備スケジュールについては、調整中

#### ◆既存の施設・市有地の有効活用

主な取組	概要
公有財産の有効活用	本市の施設の適正配置や統廃合、建替や改築などにより、新たな活用が可能となった施設や市有地が生じた場合は、全市的な行政ニーズを勘案しながら、スポーツを推進する観点から活用の可能性について検討します。 また、民間を含めたスポーツ施設の数や配置状況、市民ニーズ等を把握し、既存施設を含め、行政が担うべきスポーツ施設の考え方など、今後の方向性を検討します。
麻生スポーツセンターのESCO事業	中長期保全計画に基づく計画的な維持補修を行い、ライフサイクルコストを縮減・平準化した施設の長寿命化を推進します。
多摩川やマラソンコースなど水辺の有効活用	市民に親しまれる「ふるさとの川 多摩川」やマラソンコースを活用し、川崎国際多摩川マラソンやカヌー教室などを行います。
生田浄水場用地へのスポーツ広場等整備	生田浄水場用地の有効利用の方向性のひとつとして、スポーツ広場等の整備に向けて検討します。

多摩川サイクリングコースの延伸整備	散歩やジョギング、サイクリングなどで親しまれている多摩川サイクリングコースの多摩区布田から稲城市境までの延伸整備を行い、市民の体力向上や健康維持等を図ります。
リハビリテーション福祉センター体育館・グラウンド・プールの利用	スポーツに触れる機会を提供するため、リハビリテーション福祉センターの体育館・グラウンド・プールを障害者が利用できる施設として提供します。
等々力陸上競技場の障害者アスリートへの施設提供	障害者スポーツの普及・促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、等々力陸上競技場の施設提供を行います。
学校体育施設の有効活用	市民のスポーツ機会の拡充に向けて、土日・夜間など学校の活動に支障のない範囲で校庭・体育館等の学校施設を引き続き有効活用します。

◆その他施設の有効活用

企業等が所有するスポーツ施設の市民向け開放	市内企業や大学と協定を結び、所有するスポーツ施設や福利厚生施設を、その企業等の利用に支障のない範囲で市民へ開放し、市民が利用できる機会を提供します。
障害者アスリートの施設利用	障害者スポーツの普及促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、民間企業との協定に基づき、障害者アスリートの施設利用を促進します。

◆施設利用予約の利便性向上

ふれあいネット(公共施設利用予約システム)による予約管理	市民がふれあいネットを利用して施設の利用予約や空き状況の確認が簡単にできることによって、スポーツセンターなどの公共施設における利用予約の利便性向上を図ります。
------------------------------	---

## (5) スポーツ関係団体との連携・支援

市民がスポーツをより身近に感じ、競技スポーツのほか、スポーツ・レクリエーション、障害者や高齢者などが様々なスポーツを楽しみ、積極的に推進していけるよう、公益財団法人川崎市スポーツ協会をはじめとするスポーツ関係団体と連携を深めるとともに、団体相互の連携を図り、地域のスポーツ活動や市民主体の活動を強化します。

主な取組	概要
公益財団法人 川崎市スポーツ協会との 連携・活動支援	市内の種目別競技団体を統括する川崎市スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの推進や競技力の強化、指導者や競技団体の育成を行い、川崎市におけるスポーツの普及に取り組みます。
川崎市障害者スポーツ協会、 川崎市障がい者スポーツ指導 者協議会との連携	障害のあるなしに関わらず、スポーツができる社会の実現を目指し、川崎市障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの普及・推進と障害者の心身の健康増進及び社会参加の推進に取り組みます。 また、川崎市障がい者スポーツ指導者協議会と連携し、障害者スポーツの普及振興や指導者養成に取り組みます。
川崎市レクリエーション連盟 との連携・活動支援	川崎市レクリエーション連盟と連携し、スポーツ・レクリエーションの機会拡充に取り組みます。
川崎市老人クラブ連合会との 連携・活動支援	川崎市老人クラブ連合会と連携し、市内高齢者のスポーツを通じた健康づくり、生きがいを支援します。
日本オリンピック委員会との 連携	東京2020大会を契機として、オリンピックムーブメントの推進と国際競技力向上及びスポーツ振興を目的としてパートナー都市協定を平成27(2015)年3月に締結し、市内中学校においてオリンピックを招いて、JOC(日本オリンピック委員会)オリンピック教室を実施します。
一般社団法人 川崎ビーチスポーツクラブとの 連携	川崎ビーチスポーツクラブと連携し、ビーチバレーやビーチスポーツの楽しさを体感できるスクール・大会の開催や、質の高い環境と練習カリキュラムを提供するアカデミー事業など各種活動を支援します。

## (6) スポーツ情報の提供

市民が、スポーツを「する」だけでなく、「観る」、「支える」ために必要な情報を得ることができるよう、インターネットをはじめとするホームページや市政だより・情報誌等の様々な媒体を活用し、スポーツの魅力を高めるスポーツ情報の充実に取り組みます。

その際、子育て、福祉、健康づくり等の各分野と連携を図りながら、市民がいつでも、わかりやすい形で情報が入手できるよう、スポーツ情報を集約し、効率的かつ効果的にスポーツ情報の提供に取り組みます。

主な取組	概要
ホームページや広報紙の充実	市民がスポーツ情報をわかりやすく把握できるよう、各関係団体等と連携を図りながら、広報紙やかわさきイベントアプリ、ホームページ、テレビやラジオに加え、駅中のスペースを活用するなど、様々な形で、スポーツイベント・講座・施設情報を発信します。

スポーツセンターニュース	地域のスポーツ活動の拠点であるスポーツセンターの利用を促進するため、各施設の特徴や教室・講座の案内等を掲載したスポーツセンターニュースを発行します。
--------------	--

### (7) スポーツの安全確保

私たちが日常的にスポーツに親しむためには、スポーツ活動による不慮の事故やその他スポーツによって生じる外傷等の防止及びこれらの軽減を図り、安全な環境のもとで行うことは必要不可欠です。

事故や怪我を未然に防ぎ、安全にスポーツ活動が行えるよう安全確保に向けた事業を実施します。また、事故等が発生した場合も被害を最小限に軽減できるよう、関係団体と連携し取組を展開します。

主な取組	概要
社団法人川崎市医師会、公益社団法人川崎市看護協会との連携	スポーツの安全性を向上させるため、川崎市医師会や川崎市看護協会と連携し、大会やイベント等への医師・看護師の派遣や、スポーツに関する医科学的見地からの講演等を開催します。
川崎体育救護クラブとの連携	日本赤十字の救急法講座受講者で結成された市民グループと連携し、各種スポーツ大会に救護ボランティアを派遣し、大会の安全な運営と事故防止を図ります。
運動事故防止に関する研修会	教育活動中等の運動事故を防止するため、教職員等を対象に講習会を開催します。
AEDの配備と周知啓発	公共スポーツ施設や学校体育施設にAED（自動体外式除細動器）を配備し定期点検を行うとともに、いざという時に十分対処できるよう、関係団体と連携し、AEDの利用方法に関する研修会等を開催します。



## 基本方針2 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

- 年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができ、体力の維持向上や健やかな心身を育むことができるまちを目指します。そのために、市民の体力や年齢、興味・関心の変化などに応じ、子どもから高齢者までライフステージに対応した多様なスポーツ施策を展開します。

### 【基本方針に基づく5つの基本施策】

- (1) 乳幼児期の運動遊びの推進
- (2) 子どものスポーツの推進と体力向上に向けた取組
- (3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (5) 障害者スポーツの推進

### ■成果指標

成果指標名	現状	目標値
体力テストの結果 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) ※神奈川県の前年値を100とした際の本市の割合	100.0 (平成28年度・小5男) 100.2 (平成28年度・小5女) 93.1 (平成28年度・中2男) 95.3 (平成28年度・中2女)	100以上 (平成33年度・小5男) 100以上 (平成33年度・小5女) 100以上 (平成33年度・中2男) 100以上 (平成33年度・中2女)
障害者の週1回以上のスポーツ実施率 (市民文化局調べ)	27.3% (平成27年度)	28.3%以上 (平成32年度)
市障害者スポーツ大会 競技参加者数 (市民文化局調べ)	402人 (平成28年度)	415人以上 (平成33年度)
スポーツセンター等の 障害者個人利用者数 (市民文化局調べ)	22,488人 (平成28年度)	23,600人以上 (平成33年度)

### (1) 乳幼児期の運動遊びの推進

乳幼児期は、本格的にスポーツに接する前の準備段階、プレ・スポーツ期です。また、幼児期における運動の実践は、心身の発育に極めて重要であるにも関わらず、全ての乳幼児が十分に体を動かす機会に恵まれているとはいえない現状があります。この時期に大切なことは、“運動好き”を育てることであり、純粹に動くことの面白さや同年代の友達と一緒に遊ぶよろこび、親子で一緒に身体を動かすコミュニケーションをとる楽しさを学び、自ら進んで身体を動かすことを好きになることが非常に重要となります。

そのためにも、“親が自ら動き楽しむ姿を見せることがはじめの一步”との考え方のもと、親子で気軽にスポーツに親しみることができる場と機会を提供するなど、運動遊びを推進します。



主な取組	概要
保健福祉・子育て施設における運動遊び・外遊びの奨励	国が策定した「幼児期運動指針」に基づき、家庭や地域での運動とともに保育園等においても身体を動かす運動遊びに積極的に取り組みます。また、乳幼児が未就学期に通うことの多い保健福祉センター等の施設においても運動遊び・外遊びを奨励します。
幼児向けスポーツ教室	集団遊びやボール遊びなど、体を元気いっぱいに動かして遊ぶ幼児向け教室をスポーツセンター等で開催します。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進する教室を各区スポーツセンター等で開催します。

## (2) 子どものスポーツ推進と体力向上に向けた取組

青少年期は幼児期とともに、一生にわたる心身の礎を築く大切な時期といわれています。子どもの頃にスポーツの楽しさを味わうことで、大人になってからも「する」「観る」「支える」など何らかの形でスポーツに携わることが多くなります。また、体力面においても、学生時代に部活動などスポーツを経験した子どもたちは、大人になってからも高い体力水準を維持する傾向にあるとされています。

幼児期に培った「身体を動かすことの楽しさ」を基礎として、友達や仲間と楽しく動くことや技術の向上を目指すなど、スポーツに求めるものが多様化する重要な時期であることから、子どもがスポーツに夢中になり、生涯にわたってスポーツに親しみながら豊かなライフスタイルを実現する資質・能力を育てるとともに、学校や地域においてスポーツ機会の充実と体力の向上に取り組めます。

### ◆学校におけるスポーツの充実と子どもの体力向上

主な取組	概要
新体力テストの活用	子どもたち一人ひとりが自分の体力や運動能力を知り、体力や運動に対する意識を深め、日頃からスポーツに親しむきっかけとするため、新体力テストを実施します。 その結果を分析し、学校体育等の基礎資料として活用し授業内容の充実・改善を図るとともに、調査結果を家庭と共有し、子どもたちの体力・運動能力の向上に役立てます。
小学校キラキラタイム	休み時間や放課後に児童が一斉に外に出て遊ぶ機会を「キラキラタイム」として設けるなど、子どもたちが自ら進んで遊びやスポーツに親しむ機会を拡充し、体力の向上につなげます。
小学校体育活動における外部指導者等の活用	小学校の体育活動を充実させるため、学級担任と一緒にチームティーチングを行う小学校体育活動コーディネーターや水泳の授業に指導者を派遣するなど、地域のスポーツ人材を外部指導者として活用します。
小学校地区別運動会	近隣小学校の小学6年生が一斉参加する地区別運動会を市内各地で開催します。 近隣校の友達と運動を通して交流し、お互いを認め合ったり励まし合ったり、友達と協力する楽しさを味わうとともに、子どもたちが運動の楽しさや喜びを感じ、生涯にわたって積極的にスポーツに親しむきっかけとします。

フラッグフットボールの普及・交流大会	アメリカンフットボールを基に誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
川崎市中学校総合体育大会	学校におけるスポーツの充実・発展とスポーツライフの基礎を培い、健康で心豊かな中学生の育成を目的として、市内の運動部活動の総合体育大会を開催します。
大会への複数校合同チーム参加	生徒数が減少し、1校単位でのチーム編成が困難な中学校に対し複数校での合同チーム編成を認め、運動部活動に取り組む子どもたちの大会への参加機会を確保します。
教員の指導力向上	教員向けの実技研修会や講習会を開催するほか、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の手引きや事例集を作成し、教員の指導力向上を図ります。



### フラッグフットボール

アメリカンフットボールを基に考案された新しい球技で、タックルなど接触プレーを原則として禁止し、子どもから高齢者まで幅広い層が安全に楽しめるスポーツとして普及が進められています。「攻撃のたびにみんなで話し合い、作戦を考え、役割分担をしながら成功体験を味わうことができる」という特徴が最大の魅力で、本市では、平成 18 年度から小学校を中心に取組がスタートしており、現在は市内小学校 113 校中 95 校で体育の授業に取り入れられています。

さらに、学校での授業のほか、川崎市小・中学生フラッグフットボール交流大会や中原区長杯フラッグフットボール小学生交流大会等が行われています。(平成 29 年 10 月現在)

#### ◆小学校と中学校、中学校と高校の連携

主な取組	概要
小学校陸上記録会	川崎市中学校総合体育大会の陸上競技大会において、小学生の陸上記録会を開催します。また、小学生が公認の陸上競技場である等々力陸上競技場で走る機会を設け、運動に積極的に親しむとともに、小学校と中学校の連携を促進します。
運動部活動 中学・高校合同講習会	運動部活動を通じて、市立中学校と高校の連携を深めるため、各種目で合同講習会を開催し、子どもたちの技術力、競技力の向上に取り組みます。

#### ◆地域における子どものスポーツの充実

主な取組	概要
キッズスポーツ教室 ジュニアスポーツ教室	球技やダンス、器械体操など、スポーツの楽しさを体感し、体の基礎づくりにつながるような教室を開催します。
総合型クラブにおける 子ども向けスポーツ事業	総合型地域スポーツクラブなどで子ども向けのスポーツ事業を展開し、学校以外の場所においてもスポーツに触れる機会を拡充します。運動が苦手な子どもがスポーツの楽しさを味わうことができるようにします。
「子どもの泳力向上プロジェクト」水泳教室	地域のスイミングスクール等と連携して、プールが苦手な児童を対象に、水泳教室を開催します。

### ◆学校と地域の連携

主な取組	概要
学校体育・運動部活動の充実に 向けた外部の指導者の積極的 活用	学校体育や運動部活動を充実させるため、総合型地域スポーツクラブ など地域の人材やトップアスリート等と連携し、指導補助者や専門指 導のできる指導者を派遣します。
中学校武道必修化に応じた 地域スポーツ人材の活用	中学校における武道の必修化を踏まえ、地域の人材や体育系大学の学 生と連携し、安全・効果的な武道授業を行います。

### ◆トップアスリート等との連携

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、本 市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」が小 学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取組を進めます。
大規模大会サブイベント、プ レ・アフターイベント	大規模スポーツ大会の開催に併せて、中田大輔選手（かわさきトップア スリート）をはじめとするトップアスリートやコーチによる体験教室 や関連イベントを開催します。 大会開催の成果を子どもたちに還元し、スポーツへの興味関心を呼び 起こし、「観る」スポーツから「する」スポーツに繋がります。
JOCオリンピック教室	中学校において、オリンピックが教師役となり、自身の様々な経験を通 じて「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、 日常生活にも活かすことのできるものであることを、授業を通して学 習することを目的に開催します。
オリンピック・パラリンピアン との交流推進事業	中学校にオリンピック・パラリンピアンが訪問し、競技の体験会やアス リートの体験談をもとにした講演会を通じて、同大会の開催に向けた 機運の醸成や、スポーツに対する興味を高める機会をつくります。

### (3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり

市民アンケート等からも、学校を卒業し、仕事や家事、育児が忙しくなる子育て期や働き盛り世代は、運動不足を感じている割合が高くなっています。

スポーツ実施率が低く、運動不足になりがちな子育て期・働き盛り世代やこれまでスポーツに関わってこなかった人が、継続的にスポーツを楽しむことができるよう、夜間スポーツ教室や健康づくり教室など年代・性別に応じた幅広いスポーツ事業を実施します。

主な取組	概要
夜間スポーツ教室	スポーツセンター等での夕刻・夜間の個人利用やスポーツ教室を開催 し、社会人が仕事帰りにスポーツに親しめるようにします。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進できる教 室をスポーツセンター等で開催します。 また、子育て中も気軽にスポーツを楽しめるよう、スポーツセンター等 での保育ボランティアの配置に努めます。

軽スポーツ・ニュースポーツ教室	仕事や家事が忙しく、スポーツから一度離れてしまった人たちも再びスポーツを始められるよう、手軽にできる負荷の軽いスポーツやニュースポーツに親しむ機会を提供します。
健康づくり教室	ストレッチやエクササイズ、ヨガなど心身コントロールのための教室や生活習慣病やメタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。

#### (4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり

本市の高齢者人口は引き続き増加が見込まれる中、いつまでも元気で明るく生き生きとした生活を送ることができるよう、生活習慣病の予防・改善や健康寿命の延伸など高齢者向けのスポーツ機会を提供するとともに、高齢者の高い健康意識に対応した健康づくり事業を展開します。

また、高齢者がスポーツや運動を通じて地域社会に参加し交流を深め、生きがいを得られるよう、保健・福祉・教育など幅広い分野と連携しながらスポーツを推進します。

主な取組	概要
シニアスポーツ教室	リフレッシュ体操やシニアスイミングなど、高齢者向けの教室を開催します。
市老人スポーツ大会	豊かなシニアライフの形成と体力の増進を目的として、高齢者向けのスポーツ大会を開催します。
グラウンドゴルフ・ゲートボールの奨励	老人クラブを中心に市内各地で普及しているグラウンドゴルフとゲートボールについて、区単位の大会やねんりんピック予選を兼ねた市民大会を開催します。
ねんりんピック(全国健康福祉祭)への派遣	高齢者のスポーツ・文化の祭典である全国健康福祉祭に選手団を派遣し、健康の増進、社会参加、生きがいづくりを推進します。
健康づくり教室	公園体操やストレッチ体操などの介護予防等の取組や、生活習慣病・メタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。
いこい元気広場	市内の老人いこいの家を拠点として、高齢者を対象に、転ばない身体づくりのための体操や健康づくりにつながるミニ講座を行います。
介護♥予防かわさき体操	「上を向いて歩こう」と「好きですかわさき愛の街」を用いた、介護予防のための本市オリジナル体操の普及に取り組みます。

## (5) 障害者スポーツの推進

誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、障害のあるなしに関わらず、地域でスポーツを楽しみ、スポーツを通して豊かな生活を営むことが必要となります。

一人でも多くの障害者が自身の興味や関心に合わせてスポーツを楽しみ、交流し、社会参加・地域参加ができるよう、スポーツ教室や体験講座、総合スポーツ大会などを開催します。併せて、障害者が利用しやすいスポーツ環境の整備や、障害者スポーツ活動を支える指導員の育成と資質向上を図ります。

主な取組	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ教室</li> <li>・パラスポーツやってみるキャラバン</li> <li>・障害者スポーツデー</li> </ul>	<p>障害者のスポーツライフを支えるため、スポーツ教室や体験教室、レクリエーション教室等を開催し、障害者スポーツの普及促進を図ります。福祉教育の一環として、市内小中学生に障害者スポーツの魅力を伝える体験講座「パラスポーツやってみるキャラバン」を実施します。各区スポーツセンターにおいて、障害者や介助者等に障害者スポーツを楽しんでもらう「障害者スポーツデー」を開催します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市障害者スポーツ大会</li> <li>・市身体障害者球技大会</li> </ul>	<p>川崎市障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの推進と社会参加や障害者同士の交流を目的とする市障害者スポーツ大会（水泳、陸上、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、卓球）や種目別の球技大会を開催します。</p>
<p>全国障害者スポーツ大会への選手団の派遣</p>	<p>国民体育大会の開催に合わせて同会場・同施設で毎年開催されている全国障害者スポーツ大会に川崎市選手団を派遣します。</p>
<p>障害者スポーツ指導者の育成</p>	<p>川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。</p>
<p>障害者アスリートの施設利用</p>	<p>障害者スポーツの普及促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、等々力陸上競技場の施設提供や、民間企業との協定に基づき、障害者アスリートの施設利用を促進します。</p>
<p>リハビリテーション福祉センター体育館・グラウンド・プールの利用</p>	<p>スポーツに触れる機会を提供するため、リハビリテーション福祉センターの体育館・グラウンド・プールを障害者が利用できる施設として提供します。</p>

## 基本方針3 スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち

- スポーツには、お互いを知り合い交流を深めるきっかけとなるだけでなく、地域においてコミュニティを形成し、現代社会で希薄となった住民同士の関わりを生み出す効果も期待されます。こうしたスポーツの効果を活用し、スポーツを通し、地域でともに暮らす仲間とのふれあいやコミュニケーションを楽しみ、地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるまちを目指します。

### 【基本方針に基づく3つの基本施策】

- (1) 総合型地域スポーツクラブの充実
- (2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進
- (3) 運動の習慣づけの促進

#### ■ 成果指標

成果指標名	現状	目標値
総合型地域スポーツクラブの会員数 (市民文化局調べ)	4,800人 (平成28年度)	5,250人以上 (平成33年度)

### (1) 総合型地域スポーツクラブの充実

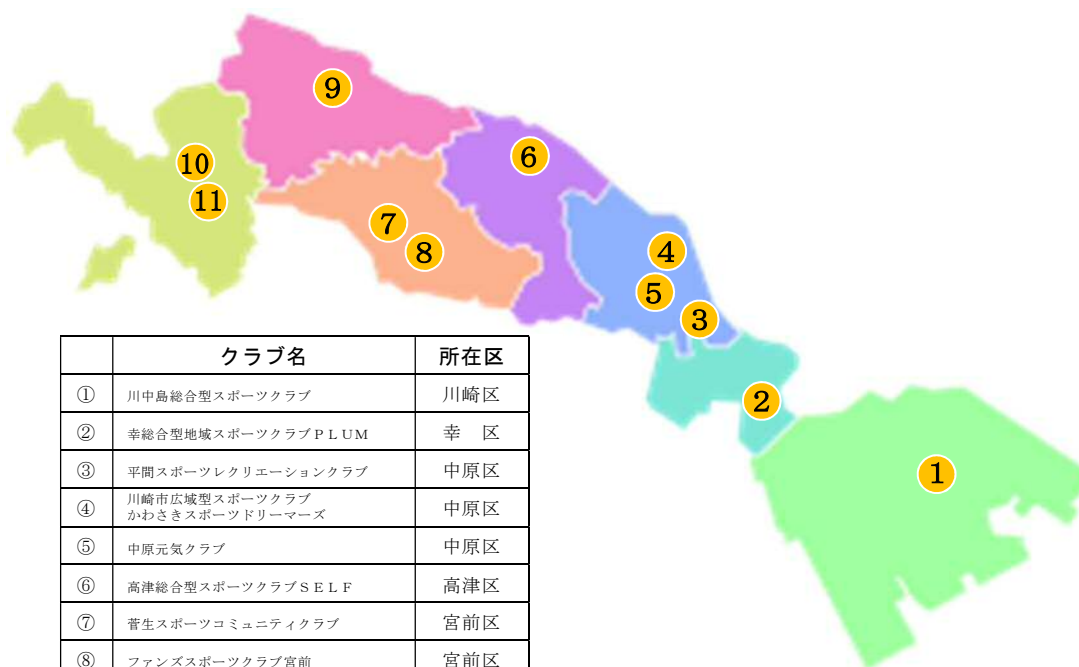
地域の特性や本市の地域資源を活用しながら「人づくり」「仲間づくり」「地域づくり」「健康づくり」を進め、多様な形でスポーツに関わることのできる総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツの担い手として、クラブ数の量的拡大に加え、質的な充実が求められています。

引き続き、総合型地域スポーツクラブの設立支援・活動の拡大に取り組むとともに、既存クラブに対しては、連絡協議会等を開催し、情報交換や運営の助言を行うほか、クラブ間の情報共有や各クラブの認知度向上に向けた支援を行います。

主な取組	概要
設立準備会の発足、 クラブの設立支援	クラブ設立の準備段階として、地域で核となる関係団体に対して総合型クラブの概要・理念・運営方法等の指導・助言、育成アドバイザーの派遣等を行います。 また、総合型クラブの設立に向けて、広報活動や指導・助言を行います。
クラブ間のネットワークの 形成	総合型クラブの育成連絡協議会を開催し、クラブ間の情報共有や各クラブの周知活動を行います。 クラブの認知度向上に向けて、市政だよりやホームページ、広報紙で市民への情報発信を行います。



◆ 総合型地域スポーツクラブの活動状況



	クラブ名	所在区
①	川中島総合型スポーツクラブ	川崎区
②	幸総合型地域スポーツクラブPLUM	幸区
③	平間スポーツレクリエーションクラブ	中原区
④	川崎市広域型スポーツクラブ かわさきスポーツドリーマーズ	中原区
⑤	中原元気クラブ	中原区
⑥	高津総合型スポーツクラブSELF	高津区
⑦	菅生スポーツコミュニティクラブ	宮前区
⑧	ファンズスポーツクラブ宮前	宮前区
⑨	中野島総合型スポーツクラブ ビルネ	多摩区
⑩	金程中学校区わ・わ・わ・クラブ	麻生区
⑪	柿生地区総合型地域スポーツクラブGET	麻生区

(2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進

都市化の進行によりコミュニティの質が変容する中においても、市民や多様な主体と行政が連携を図りながら、地域課題や多様な市民ニーズに的確に対応する必要があります。

スポーツを通じて、魅力ある地域づくりやコミュニティの形成・活性化、健康づくりへの意識の向上などを図るため、「する」「観る」「支える」など、様々な立場や役割で市民が関わることができる特色あるスポーツ事業・イベントなどを展開します。

◆各區で実施する主なスポーツ事業・イベント

	主な取組	概要
川崎区	パワフルかわさき 区民綱引き大会	かわさき市民まつりにおいて、川崎区内でともに暮らす町内会や子ども会、クラブチーム、企業など多様な主体が参加する綱引き大会を開催します。
幸区	幸区リレーカーニバル	幸区における地域主体の一大スポーツイベントとして、小学生・中学生から大人まで、区内の各地域から 1,000 名以上が参加するリレー種目限定の運動会の開催を支援します。
中原区	中原区民総ぐるみ スポーツ大会	多様な種目を体験することができるスポーツラリーとともに、幅広いチームが参加するドッジボール大会を開催し、中原区民のスポーツを通じた健康・体力の増進、仲間との親睦の輪づくりを推進します。

高津区	高津地区・橘地区 親子運動会	運動・スポーツを通して親子コミュニケーションを促進し、近隣住民同士の親睦を深めるため、親子参加型、町内会対抗型の地区別運動会を開催します。
宮前区	みやまえスポーツ ふえすていばる	ソフトボール大会やバレーボール等の球技、ニュースポーツ、ウォーキング大会など様々な種目のスポーツ大会を年間通じて開催し、多様なスポーツに親しむ機会を提供します。
多摩区	多摩区スポーツフェスタ	誰もが安心して参加でき、気軽にスポーツに親しむ・楽しむ機会を提供し、アスリートとの交流などを通じて、区民のスポーツへの関心を高め、スポーツを通じた健康で元気のあるまちづくりを推進します。
麻生区	あさおスポーツ フェスティバル	健康と体力の向上、活力ある地域づくりを目的として、麻生区内の様々な団体と連携し、市民が自主的に行う様々なスポーツ大会を支援します。

◆多様な主体と連携した取組

	主な取組	概要
川崎区	アサヒビールシルバースターとの連携	川崎区内で活動している「アサヒビールシルバースター」と連携し、選手と子どもたちがふれあう体験イベントなどを実施します。
幸区	川崎フロンターレ 幸アシストクラブ	幸区内の町内会連合会、社会福祉協議会、商店街連合会などにより構成され、区内で活動する各種団体と川崎フロンターレが互いに協力して地域イベントや大会を開催し、区民のスポーツ推進、地域の連携や活性化を図っていきます。
中原区	富士通フロンティアーズ・ 法政大学オレンジ との連携	中原区内を活動拠点とする両チームとの連携を深め、アメリカンフットボール・フラッグフットボールの普及に取り組みます。
	川崎フロンターレ 中原アシストクラブ	中原区内の商店街や法人、団体により構成されたアシストクラブ。今後も住民転入が続くと予想される中原区の特徴を踏まえ、区のイメージアップと新規住民と既存住民の懸け橋として川崎フロンターレを通じて、地域交流の機会拡充とコミュニティ活性化を図ります。
高津区	高津区地域連携 スポーツ事業	NPO、企業、学校、スポーツ団体等と連携し、「親子そり体験」「ファミリースポーツ緑日」などのスポーツイベントを開催し、地域コミュニティの活性化や地域におけるスポーツの参加機会の拡充を図ります。
宮前区	フロンタウンさぎぬま との連携	川崎フロンターレが運営するフットサル施設「フロンタウンさぎぬま」と区役所間で協定を締結し、同施設を地域資源と位置付け、スポーツ・健康づくりをはじめとした広範な分野において積極的に相互の連携・協力を進めます。



麻生区	スポーツのまち麻生推進会議	町内会や子ども会、スポーツ推進委員会など麻生区内でスポーツ事業を実施している団体と区役所間で連携し、区内のスポーツ事業の企画提案・意見交換を行います。
	川崎フロンターレ 麻生アシストクラブ	麻生区内の企業・団体が中心となり、川崎フロンターレと連携し、魅力ある「スポーツのまちづくり」を推進するとともに、スポーツを通じて豊かな人間性を育む環境づくりを進めます。

### (3) 運動の習慣づけの促進

日常生活において、身体を動かし、習慣的に運動を行うことは、生活習慣病の予防や介護予防に効果があることが認められています。また、日常生活の中で意図的に身体を動かすことの積み重ねが、生活習慣病の予防につながります。

運動普及推進員等の健康づくりボランティアによる活動をはじめ、オリジナル体操の普及・活性化や、誰もが気軽に取り組めるウォーキングなどの普及啓発により、運動の習慣づけを促進します。

主な取組	概要
健康づくりのためのボランティアの養成・地区活動の支援	運動等をテーマに、家族ぐるみ、地域ぐるみで健康づくりに取り組むことができるようにボランティア活動を支援します。



#### 体操の普及

体操グループ立ち上げ支援や体操マップ、ご当地オリジナル体操の作成を通じ、身近な住民交流と健康づくりの場として広まっている市民主体の体操の普及・活性化を支援します。

#### ◆体操の普及

主な取組	概要
介護♥予防かわさき体操	「上を向いて歩こう」と「好きですかわさき愛の街」を用いた、介護予防のための本市オリジナル体操の普及に取り組みます。
川崎区 ほほえみ元気体操	健康づくり・介護予防のために作成したほほえみ元気体操を健康づくりサポーターとともに普及していきます。 椅子に座って行う体操と、立ち姿勢で行う体操の2種類があります。
幸区 地域の自主体操グループと連携した健康づくり活動の推進	町内会館等で様々なグループが実施している健康体操やストレッチ等の活動を支援し、住民主体の健康づくり活動を推進します。
中原区 なかはらパンジー体操	高齢者の健康づくりや地域交流を目的に、区の花パンジーが元気に咲く様子をモチーフに作成した区のオリジナル体操について、市民ボランティア「なかはらパンジー隊」とともに普及活動を行います。

高津区	高津公園体操	生活習慣病や転倒・骨折の予防を目的として作成した、「有酸素運動」「筋力トレーニング」「柔軟運動」という運動の3要素を組み込んだ区のオリジナル体操の普及に取り組みます。
宮前区	・宮前区公園体操 ・宮前区ストレッチ体操～風の中で～	健康づくりと介護予防を目指し、公園等で地域住民が自主的に行う体操の取組を支援します。 また、世代を問わず、運動が苦手な人でも安心して取り組めるようヘルスパートナーみやまえ（宮前区運動普及推進員）が作成した区のオリジナルストレッチ体操の普及に取り組みます。
多摩区	・多摩区いきいき体操 ・多摩区みんなの公園体操	健康づくりと介護予防、地域のネットワークづくり・活性化を目指して作成した2つの体操について、体験イベントやボランティア養成教室を開催し、地域への普及・拡大を促進します。
麻生区	・かがやいて麻生ストレッチ体操 ・公園体操	みんなが一緒にできるような区のイメージソング「かがやいて麻生」に合わせて、あさお運動普及推進員の会が作成したストレッチ体操について、公園での定期開催や区民まつり、出張体験教室などの場で地域への普及を進めます。



### ウォーキングの推進

ウォーキングは、場所・時間・年齢を問わず誰もが手軽に取り組める運動です。

まちを歩くことは、健康づくりとともに地域の魅力を発見し、まちへの愛着を形成する効果もあります。まちの魅力めぐりと健康づくりを兼ねて行われるウォーキングの普及を支援するため、ウォーキングマップの作成やウォーキングを開催します。

#### ◆ウォーキングの推進

	主な取組	概要
川崎区	川崎区ウォーキングガイドブック	区内のウォーキンググループの活動を支援するとともに、バリアフリーなどの安全面の配慮を盛り込んだ「ウォーキングガイドブック」を作成・配布します。
幸区	ウォーキンググループの活動支援	区内のウォーキンググループと連携して、保健師等による健康教育を実施するなど、ウォーキングによる健康づくり・介護予防活動を支援します。
中原区	歩こう会	歩くことによる健康増進と体力向上につなげようと、中原区内を中心に月1回の定例ウォーキングを開催します。 楽しく歩くことに主眼を置き、誰でも自由に参加可能で友人づくりを目的に参加する人も多いウォーキングです。
高津区	橘の散歩道ウォークラリー	地図を見ながら地域を歩き、途中でクイズやゲームをしながら子どもたちに地域の魅力を再発見してもらうウォークラリーを開催します。

宮前区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカバーウォーク</li> <li>みやまえ</li> <li>・歩こう会</li> </ul>	スポーツ推進委員や青少年指導員と連携し、地域発見型ウォーキング「ディスカバーウォークみやまえ」と「歩こう会」を開催します。
多摩区	多摩区ふれあいウォーキング	普段見過ごしがちな風景に目を留めながら地域を楽しく歩く「多摩区ふれあいウォーキング」を開催します。
	多摩区健康ウォーク	多摩区ウォーキング推進委員会が中心となり、身近な地区でウォーキングをする場として「多摩区地区ウォーク」を開催し、区内の自然と名所を歩くウォーキングコースを紹介します。
麻生区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩け歩け運動</li> <li>・あさお体験ウォーク</li> <li>・わくわくウォーク</li> </ul>	区内の自然や歴史・景観に触れながらまちを歩く「歩け歩け運動」「あさお体験ウォーク」と、ゲームやクイズをしながらチームでコースを回る「わくわくウォーク」などを実施します。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園ウォーキング</li> <li>・あさおウォーキングマップ</li> </ul>	地域の健康づくりを推進するため、ウォーキング普及ボランティアと連携し、区内の公園を拠点に2～3km程度のウォーキングを実施します。また、麻生区内のウォーキングコースをわかりやすく紹介したマップを発行します。

## 基本方針4 スポーツに挑戦する喜びがあるまち

- 各種スポーツにおける技術力向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化などを行い、スポーツへ挑戦し、その成果を発揮することができるまちを目指します。

### 【基本方針に基づく4つの基本施策】

- (1) 次世代アスリートの強化・育成
- (2) 指導力の向上
- (3) 各種スポーツ大会の開催・参加
- (4) 公共スポーツ施設の機能向上

### ■成果指標

成果指標名	現状	目標値
「多摩川ランフェスタ in 川崎」 <sup>*</sup> の参加者数 (市民文化局調べ)	12,447人 (平成28年度)	13,000人以上 (平成33年度)

<sup>\*</sup>川崎国際多摩川マラソンと多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

### (1) 次世代アスリートの強化・育成

本市に縁のあるアスリートが各種競技大会で活躍することにより、市民に夢や希望、感動を与え、川崎への愛着や誇り（シビックプライド）の醸成に繋がり、スポーツのまち・かわさきを広くPRすることができます。

将来を見据えた、本市からのオリンピック・パラリンピック選手の輩出の可能性を高めるための取組として、川崎市スポーツ協会と連携を図りながら、神奈川県や国の強化指定選手等への指定につなげるための、次世代アスリートの強化・育成に向けた支援を行います。

主な取組	概要
次世代アスリートの強化・育成支援	潜在能力のある次世代アスリートを発掘し、県・関東・全国レベルの競技大会で活躍できるよう、市内の種目別競技団体が行うジュニア選手の強化・育成事業に対して支援を行います。
川崎フロンターレ サッカークリニック	川崎フロンターレのコーチを市内の中学校に派遣し、部活動に取り組み子どもたちを指導し、サッカーの技術力向上に取り組みます。

### (2) 指導力の向上

東京2020大会に向けた市民意識の高揚により、スポーツ競技人口の増加が見込まれます。

市民スポーツを実施する上での指導者ニーズに適切に対応するため、指導者の計画的な育成や資質の向上に取り組むとともに、地域のスポーツ団体への指導者派遣を行います。

主な取組	概要
スポーツ指導者の派遣	生涯スポーツの積極的な普及・推進と指導者の確保及び資質向上を図るため、地域のスポーツ団体の要請に応じて川崎市スポーツ協会加盟団体の専門指導者を派遣します。

競技指導者等の育成支援	川崎市スポーツ協会と連携し、市内の種目別競技団体が行う指導者の育成を支援します。また、川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。
-------------	---

### (3) 各種スポーツ大会の開催・参加

障害のあるなしに関わらず、日頃のトレーニングや努力の成果を発揮し、競い合い、目標を達成する喜びを感じる機会として、競技大会を開催するとともに大規模なスポーツ大会への参加を支援・奨励します。

主な取組	概要
市民体育大会	市民の生涯スポーツの意識高揚や健康増進、体力の向上を目的として、様々な種目で広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。
市障害者スポーツ大会の開催 全国障害者スポーツ大会への 選手団の派遣	障害者スポーツの推進と社会参加を目的として、市障害者スポーツ大会（陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング）を「全国障害者スポーツ大会」の本市代表の選考も兼ねて開催します。また、国民体育大会とともに行われる全国障害者スポーツ大会に川崎市選手団（個人競技選手及び役員）を派遣します。
市町村かながわ駅伝への参加	本市の代表選手を選抜し、秦野市～相模湖を舞台に行われる神奈川県内の市町村対抗の駅伝大会に参加します。
川崎国際多摩川マラソン	多摩川の河川敷を活用し、本市を代表するスポーツイベントであるランニングフェスティバルを開催します。数千人が参加する大規模大会であり、自己の目標へ挑むことや他のランナーとの競い合いによる競技の醍醐味を味わうことができます。
多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎	子どもから大人まで幅広い世代が参加し、国内最大級の大会として親しまれる駅伝大会を開催します。 1,000を超えるチームが参加する大規模大会であり、自分達で立てたチーム目標へ挑むことや他のチームとの競い合いによる競技の醍醐味を味わうことができます。
国際大会・国民体育大会や、中 学生・高校生の大規模大会への 出場奨励	国際大会（オリンピック・パラリンピック、アジア大会等）や国民体育大会に出場する市内に住所を有する選手に奨励金を交付します。 また、関東大会・全国大会等に出場する市立中学校・高校の生徒に参加奨励費と派遣費を支給します。
川崎市スポーツ賞	スポーツで顕著な活躍をした個人や団体を対象に、川崎市スポーツ賞を贈呈します。

#### (4) 公共スポーツ施設の機能向上

競技力の向上をハード面から支えるとともに、市民が日頃から継続的に技術力・競技力を高めることができる環境を確保するため、公共スポーツ施設の改修・再編を行い、機能向上を図ります。

主な取組	概要
川崎マリエン JOC認定バレーボール競技強化センター	ビーチバレースクールや各種大会の開催を支援するとともに、競技施設・トレーニング設備を備えたJOC認定バレーボール強化センターとして認定を受けた川崎マリエンを活用し、日本代表候補の選手強化を支援します。
スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）の運営	富士見公園の整備にあわせて、スポーツ・文化・レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、体育館機能として県大会や市民大会が開催できる1,500席程度の客席を持った大体育室や、柔道や剣道のできる多目的室、弓道場（和弓・洋弓）や大会開催時の練習に利用できる練習場等を備えたスポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）を整備し、平成29年10月から利用開始した施設の管理・運営を行います。
等々力陸上競技場の第2期整備	等々力陸上競技場第2期整備（サイド・バックスタンドの整備）について、各種競技を開催するための基準や要望等の課題整理、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを総合的に検証しながら、施設の安全性や機能向上に向け、整備を推進します。
等々力硬式野球場の再整備	高校野球や社会人野球などの大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上に向け、整備を推進します。

## 基本方針5 スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち

- 川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携を図るなど、地域活動や地域の活力を高める取組を推進し、スポーツを通して、誰もが川崎の魅力・活力が感じられるまちを目指します。

### 【基本方針に基づく4つの基本施策】

- (1) ホームタウンスポーツの推進
- (2) スポーツを通じた本市の魅力発信
- (3) スポーツによる地域経済の活性化
- (4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

### ■成果指標

成果指標名	現状	目標値
かわさきスポーツパートナーによるホームゲーム市民招待の申込者数 (市民文化局調べ)	3,144人 (H24～H28シーズンの平均)	3,301人以上 (H30～H33シーズンの平均)

### (1) ホームタウンスポーツの推進

スポーツが盛んで、活気あふれるまちを目指して、本市は、これまで6団体を「かわさきスポーツパートナー」として認定し、ホームタウンスポーツのシンボルとして、市民のまちへの愛着と誇り、連帯感を育むなど、市民との交流・ふれあい事業を中心としたスポーツ活動を推進してきました。

本市をホームタウンとするトップチームと協働・連携しながら、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等を一層進めるため、今後も引き続き、クラブや後援会などへの多角的な支援を行い、ホームタウンスポーツの振興を図ります。

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」が小学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取組を進めます。
「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待や交流イベント実施	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」の試合に市民を招待し、スポーツ観戦の醍醐味を直接肌で感じることでできる機会を提供します。 また、「かわさきスポーツパートナー」間で協力し、種目の枠を超えた連携や一堂に会する市民との交流イベントなどを実施し、地域に根差した活動を行います。



市内を拠点に活動する アスリートとの連携	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」のほか、様々な種目で市内各地区を拠点に活躍しているアスリートとの連携を進めます。
-------------------------	---

◆川崎フロンターレとの連携・協働

主な取組		概要
川崎フロンターレが行う 地域密着活動の支援		川崎フロンターレが市内で行っているスポーツ活動やスポーツ以外の分野での地域活動を支援し、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等の取組を推進します。
川崎フロンターレ後援会の活動支援 川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会		チームが市民のシンボルとなり、市民のまちへの愛着と誇り、連帯感が育まれるよう、川崎フロンターレ後援会や川崎フロンターレ連携・魅力づくり実行委員会を通じて同クラブへの多角的な支援を行います。
イベント広場 「フロンパーク」の開催支援		等々力陸上競技場での川崎フロンターレのホームゲーム時に開設されるイベント広場「フロンパーク」の開催を支援します。 市内産物・名産品の物販・名所のPRブースなどの開設や、本市にちなんだイベントの開催など、等々力陸上競技場を訪れる市民はもとより、アウェイチームサポーターに対しても本市の魅力を感じられる機会を提供します。
幸区	川崎フロンターレ 幸アシストクラブ	幸区内の町内会連合会、社会福祉協議会、商店街連合会などにより構成され、区内で活動する各種団体と川崎フロンターレが互いに協力して地域イベントや大会を開催し、区民のスポーツ推進、地域の連携や活性化を図っていきます。
中原区	川崎フロンターレ 中原アシストクラブ	中原区内の商店街や法人、団体により構成されたアシストクラブ。今後も住民転入が続くと予想される中原区の特徴を踏まえ、区のイメージアップと新規住民と既存住民の懸け橋として川崎フロンターレと連携しながら、地域交流の機会拡充とコミュニティ活性化を図ります。
宮前区	フロンタウンさぎぬまとの連携	川崎フロンターレが運営するフットサル施設「フロンタウンさぎぬま」と区役所間で協定を締結し、同施設を地域資源と位置付け、スポーツ・健康づくりをはじめ広範な分野において積極的に相互の連携・協力を進めます。
麻生区	川崎フロンターレ 麻生アシストクラブ	麻生区内の企業・団体が中心となり、川崎フロンターレと連携し、魅力ある「スポーツのまちづくり」を推進するとともに、スポーツを通じて豊かな人間性を育む環境づくりを進めます。



**川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会**

地域の魅力づくりを行い、スポーツを通じて市民のまちへの愛着と誇り、連帯感を育むため、市民クラブである川崎フロンターレと連携したイベント等を企画・実施する委員会です。

川崎フロンターレ後援会や川崎市サッカー協会のほか、商工会議所や青年会議所、商店街連合会、老人クラブ連合会、町内会連合会など市内の関係団体が参加しています。

## ◆川崎ブレイブサンダースとの連携・協働

主な取組	概要
川崎ブレイブサンダースが行う地域密着活動の支援	川崎ブレイブサンダースが市内で行っているスポーツ活動やスポーツ以外の分野での地域活動を支援し、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等の取組を推進します。

## (2) スポーツを通じた本市の魅力発信

スポーツには、地域の一体感や市民の活力の醸成など、様々な効果があるとされています。「かわさきスポーツパートナー」をはじめとするスポーツチームやアスリートの持つ情報発信力・PR力は特筆すべきものがあり、産業・文化・芸術と並びスポーツが、都市としての更なる魅力の向上や、市民としてのアイデンティティの形成、川崎への愛着・誇り（シビックプライド）の醸成に大きく寄与すると考えられます。

ホームタウンスポーツの推進や東京 2020 大会を契機とする若者文化の発信など、スポーツに関連する様々な取組と連携を図りながら、自ら暮らすまちへの愛着と誇りの次世代への継承や、観光・教育などの各分野の施策・事業の効果を高め、活力にあふれた魅力あるまちづくりを進めます。

主な取組	概要
英国代表チームの事前キャンプ受け入れ	「ホストタウン構想」を活用し、英国とスポーツ、文化、教育、産業など幅広い分野での交流事業を実施します。
国内外との都市間交流	スポーツを通して、文化・伝統の異なる国や地域との交流を図り、心身の健全な成長に資することを目的として、本市と国内外の自治体との間で都市間交流事業を実施します。
ポスターなど各種啓発事業への協力	トップチーム・トップアスリートの知名度を活かし、献血や薬物乱用防止といった各種啓発ポスターへの登用などを行い、市民への周知・啓発活動を推進します。
市民文化大使	スポーツで活躍する選手等を文化芸術分野の人たちとともに市民文化大使に選任し、他都市との交流事業や市内の文化事業等に参加いただき、本市のイメージアップを図ります。
読書のまち・かわさき事業	川崎フロンターレと連携し、選手おすすめ本リストの配布や、選手による絵本の読み聞かせなどを行い、本の魅力・読書の楽しさを広げ、子ども豊かな心を育むための読書推進活動を行います。
カーボンチャレンジ等々力	川崎フロンターレ、富士通川崎工場、川崎市公園緑地協会、川崎市の4者で連携し、川崎フロンターレのホームゲームにおけるリユース食器の活用や環境啓発イベントの実施など地球温暖化対策に取り組みます。

### (3) スポーツによる地域経済の活性化

スポーツの社会的役割の増大やスポーツへの意識の高まりとともに産業規模が拡大し、スポーツ関連産業は、成長産業として大きな経済効果が期待されています。

市民に親しまれる「ふるさとの川 多摩川」などの自然や環境等の資源とスポーツを融合したスポーツツーリズムの推進やイベントの開催、地元産業・商店街などがタイアップした事業を展開し、スポーツによる地域経済の活性化を図ります。

併せて、国や神奈川県、種目別競技団体等と連携し、国際的・全国的な競技大会の誘致に努めます。

主な取組	概要
スポーツと連携した観光振興	国内外におけるスポーツツーリズムの高まりなどの動向を踏まえ、自転車で市内各地の名所を巡る「かわさきライドサーカス」などの体験型イベントや、「かわさきスポーツパートナー」と連携した取組など、川崎の魅力を広く知ってもらい、本市の魅力を高めるまちづくりを進めます。
国際的・全国的スポーツ大会の開催	「全日本アルティメット選手権大会」や「大学ラグロス大会」など全国的なスポーツ大会の開催により、世界最高・国内トップレベルの競技に接し、直接観戦する機会を提供するとともに、スポーツに対する興味関心を引き起こし市内外の交流人口の拡大などを通じて、地域経済の活性化を図ります。
イベント広場「フロンパーク」の開催支援	等々力陸上競技場での川崎フロンターレのホームゲーム時に開設されるイベント広場「フロンパーク」の開催を支援します。 市内産物・名産品の物販・名所のPRブースなどの開設や、本市にちなんだイベントの開催など、等々力陸上競技場を訪れる市民はもとより、アウェイチームサポーターに対しても本市の魅力を感じられる機会を提供します。
B u yかわさきキャンペーンとの連携	「B u yかわさきキャンペーン」と連携し、川崎フロンターレのホームゲームや大規模スポーツ大会などにおいて名産品を購入できる店舗を出店し、市内の優れた産物を市内外に広く紹介し、市内での消費拡大に取り組みます。
浴場組合連合会との連携	大勢の参加者が集まるマラソンや駅伝等の大規模スポーツ大会の開催時に浴場組合連合会と連携し銭湯マップを作成し、参加者へのサービス向上と浴場の利用促進を図ります。

### (4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

本市は、アメリカンフットボール社会人Xリーグや学生リーグの公式戦がかねてより川崎球場で数多く開催されていたほか、複数の国内トップチームの練習拠点が市内にあるなど、もともとアメリカンフットボールが活発でなじみの深い土地柄です。

平成 19 (2007) 年にアジアで初めてとなるアメリカンフットボールワールドカップ大会が川崎で開催されたことを契機に、同年 11 月には、日本アメリカンフットボール協会と、アメリカンフットボールを今後のまちづくりにより活用していくための包括協定を締結しました。

こうした経緯や地域資源を踏まえ、多様な媒体・メディアを活用しながらアメリカンフットボールの魅力を広く市内外に発信しイメージアップを図るとともに、競技関係者と商店街が広報・PR・イベント等で連携し、競技の魅力の発信や地域経済の活性化につなげる取組を推進していきます。

併せて、教育的効果の高さが注目されているフラッグフットボールを市内学校教育の中に定着させ、子どもたちの健全育成につなげていきます。

主な取組		概要
富士通スタジアム川崎 (川崎富士見球技場) を活用した取組		アメリカンフットボールの聖地(活動拠点)となっている富士通スタジアム川崎(川崎富士見球技場)は、4,000席程度の常設観客席を整備するなど、競技者と観客の双方が利用しやすい施設となっています。日本アメリカンフットボール協会等の関係事業者と連携を図りながら、同スタジアムを活用し、「川崎アメフト屋台村」などの魅力発信イベントを開催しアメリカンフットボールを活用したまちづくりを進めます。
アメリカンフットボール 公式戦への市民招待		本市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグであるXリーグ(日本社会人アメリカンフットボールリーグ)や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。
フラッグフットボールの普及・ 交流大会		アメリカンフットボールをもとに、誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
アメリカンフットボールを活用した 商店街振興		川崎駅周辺の商店街での飲食割引やサービス特典を掲載した広報物の作成など、川崎球場で数多く開催されるアメリカンフットボールの試合をまちの賑わい・商店街振興につなげるための取組を進めます。
川崎区	アサヒビールシルバースターとの連携	川崎区内で活動している「アサヒビールシルバースター」と連携し、選手と子どもたちがふれあう体験イベントなどを実施します。
中原区	富士通フロンティアーズ・法政大学オレンジとの連携	中原区内を活動拠点とする両チームとの連携を深め、アメリカンフットボール・フラッグフットボールの普及に取り組みます。

## 第5章 計画の推進

### 1 計画の改定に向けた取組

#### (1) アンケート調査等

市内在住の満18歳以上の市民3,000人（住民基本台帳より年代、性別、居住区の層に分けて無作為抽出）を対象に、スポーツに関する市民アンケートをはじめ、スポーツ団体・施設の実態調査や、中学生を対象としたアンケート調査、市内で活躍するスポーツ競技者からのヒアリング等を実施しました。

アンケートの集計やヒアリングの結果は、スポーツへの市民の実態・意識、施設の利用状況等の実態を把握する資料として活用を図ることに加え、市民ニーズを踏まえたスポーツ活動に求められる今後の取組や方向性等の分析に活用しました。

#### (2) 川崎市スポーツ推進計画庁内推進委員会

庁内の関連部署で構成する「川崎市スポーツ推進計画庁内推進委員会」において、市民アンケートの内容確認や結果の考察、国の第2期スポーツ基本計画や神奈川県スポーツ推進計画と本市スポーツ施策における具体的取組や事業等との整合性等の検証、本計画案の取りまとめに向けた協議、検討、調整を行いました。

#### (3) 川崎市スポーツ推進審議会

学識経験者、学校体育関係者、スポーツ関係者、市内スポーツ団体、関係行政機関で構成する「川崎市スポーツ推進審議会」において、市民アンケートの内容確認や結果の考察、国の第2期スポーツ基本計画や神奈川県スポーツ推進計画と本市スポーツ施策における具体的取組や事業等との整合性等の検証、本計画案の取りまとめなど、各段階で調査審議をいただきました。

### 2 計画の推進体制と評価・検証

「スポーツのまち・かわさき」として本計画が効果的・効率的に実施されるよう、以下の体制にて、進行管理等を行います。

#### (1) 協働による事業推進

市民が主体的にスポーツを楽しみ、地域での住民相互の交流を図ることができるよう、川崎市、市民、スポーツ団体、事業者などが連携・協働し、計画を推進していきます。

#### (2) 庁内の推進体制

「川崎市スポーツ推進計画庁内推進委員会」において、計画に沿って、総合的・計画的かつ効果的・効率的に事業が執行されるよう、各部署の横断的連携による施策の進行管理、事業調整を行っていきます。

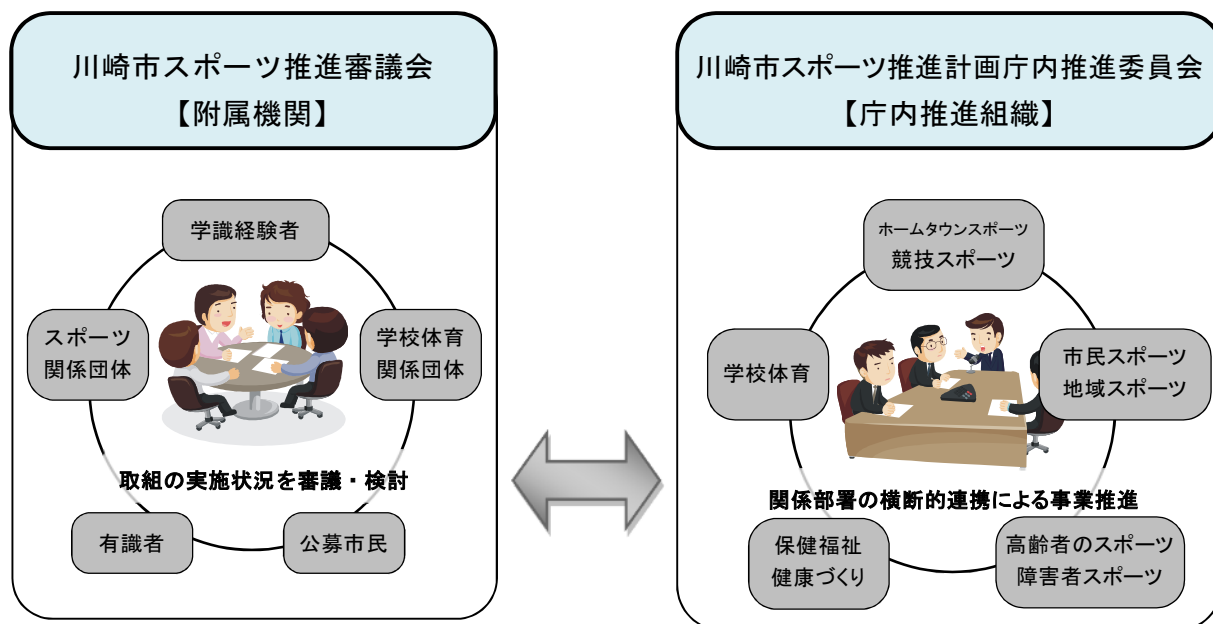
### (3) 計画の進行管理

本計画に位置付けた施策・取組を着実に推進していくために、実施した基本方針毎の成果指標を検証するとともに、多岐にわたる取組については、原則として本市総合計画の実施計画の進行管理を活用し、「川崎市スポーツ推進計画庁内推進委員会」において、各取組の進捗状況を確認します。

また、次期計画の見直し時は、成果指標を含めた取組結果について、評価と検証を行います。

### (4) 川崎市スポーツ推進審議会への進捗報告・意見聴取

計画に基づく施策・取組の実施状況等を「川崎市スポーツ推進審議会」に報告し、市民公募委員や学識経験者、各専門分野の委員の立場から、本計画の推進状況を審議し、より効果的・効率的に取組が実施できるようにします。



## 川崎市スポーツ推進計画

---

川崎市市民文化局市民スポーツ室

〒210-0007

川崎市川崎区駅前本町 1 1 - 2

川崎フロンティアビル 9 階

Tel : 044-200-3312

Fax : 044-200-3599



# Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

# 「川崎市スポーツ推進計画」の改定(案)について

～市民の皆様から意見を募集します～

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や、スポーツ庁の新設など本市のスポーツ施策を取り巻く状況変化へ対応等を図り、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりを推進するため、川崎市スポーツ推進計画の改定(案)をとりまとめましたので、市民の皆様からの御意見を募集いたします。

## 1 意見募集期間

平成 29 年 12 月 1 日(金)～平成 30 年 1 月 5 日(金)

※郵送の場合は当日消印有効です。

※直接お持ちになる場合は、土日祝日及び年末年始の閉庁日(12月29日(金)～1月3日(水))を除き、1月5日(金)の17:15までをお願いします。

## 2 閲覧資料

(1)「川崎市スポーツ推進計画」の改定について

(2)川崎市スポーツ推進計画改定(案)

## 3 閲覧場所

川崎市ホームページ、かわさき情報プラザ、公文書館、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館(本館・分館)、市民館(本館・分館)、とどろきアリーナ、カルッツかわさき(スポーツ・文化総合センター)、各スポーツセンター、石川記念武道館、市民文化局市民スポーツ室

## 4 意見提出方法

(1) 郵送・持参

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町 11-2 川崎フロンティアビル 9 階  
川崎市市民文化局 市民スポーツ室

(2) FAX(書式自由) 番号:044-200-3599 (市民文化局市民スポーツ室)

(3) 電子メール(市ホームページのパブリックコメントの専用フォーム利用)

※1 意見書の住所、氏名及び電話番号は、意見の内容を確認させていただく場合があるため、記載をお願いするものです。他の目的に利用せず、適正に管理します。また、意見を提出できる方の範囲は、市内に在住、在勤、在学の方、又はこの案件の内容に利害関係のある方とさせていただきます。(個人、団体を問いません)。

※2 電話での受付及び個別の回答はいたしませんので、あらかじめ御了承ください。

※3 お寄せいただいた御意見は、平成30年3月頃に、住所、氏名等の個人情報を除き、内容を整理又は要約した上で、御意見に対する本市の考え方を取りまとめてホームページ等で公表する予定です。

## 5 問い合わせ先

川崎市役所 市民文化局 市民スポーツ室 電話 044-200-3312